iPad／iPhone 専用リノベーション現況調査アプリ

リのべっち

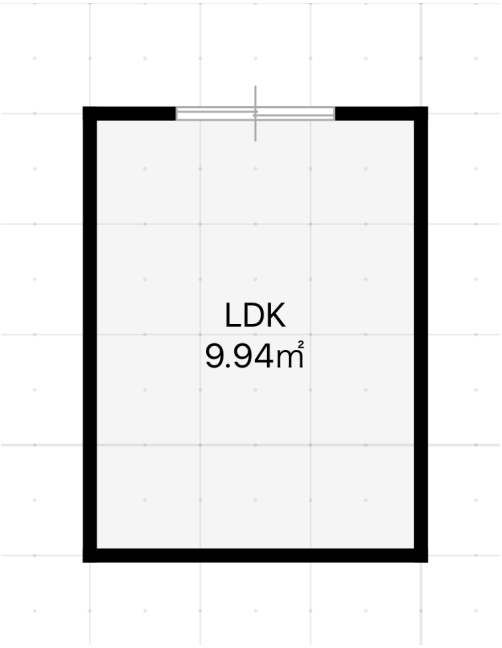
― 基本操作編 ―

正誤表

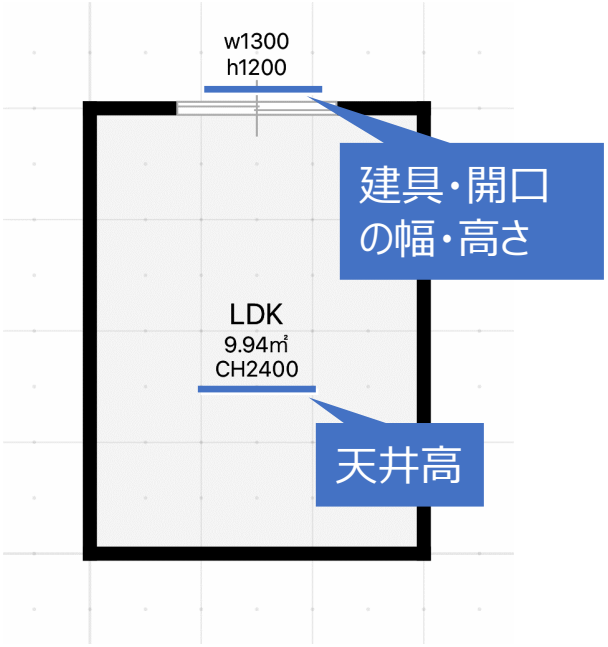
『りのべっち』をご利用いただくにあたって、本書と実際の画面と内容が異なる箇所について記載いたします。

【入力画面：天井高、建具・開口の幅・高さの表示】

本書に掲載されている入力画面には、天井高、建具・開口の幅・高さが表示されていませんが、実際の入力画面には天井高、建具・開口の幅・高さが表示されます。これらの値は、910 コマンドで変更できます（P.17 参照）。



【本書に掲載している入力画面】



【実際の入力画面】

1 概要　りのべっちの利用シーン

リノベーションの利用シーンにおける、りのべっちの入力方法は下記のとおりです。

目的	りのべっちの入力	シーン	ZERO連携※1	りのべっちの操作方法	本書ページ
軽微なリノベーション	1・2 部屋を入力	・ りのべっちで現況図を作成する場合 りのべっちで計画図を作成して提案したい場合	不要	①フリー入力	P.2
				②スキャン（LiDAR）	P.30
				④メーカー建材の割当※2	P.39
		・ ZERO 連携して計画図を検討する場合	必要	①フリー入力	P.2
				②スキャン（LiDAR）	P.30
大規模リノベーション	1 棟まるごと入力	・ りのべっちで現況図を作成する場合 りのべっちで計画図を作成して提案したい場合	不要	①フリー入力	P.2
				④メーカー建材の割当※2	P.39
		・ ZERO で計画図を検討する場合	必要	③下図	P.32
耐震診断	1 棟まるごと入力	・ りのべっちで現況図を作成し、ZERO で耐震診断を行う場合	必要	①フリー入力	P.2
				③下図	P.32

※ 1：ZERO 連携について

りのべっちの間取りデータを ARCHITREND ZERO に連携するには、以下の機能等が必要になります。

・ ZERO Ver.10（2023 年 10 月リリース）以降、かつ ZERO の『リノベーション』オプションを購入している必要があります。

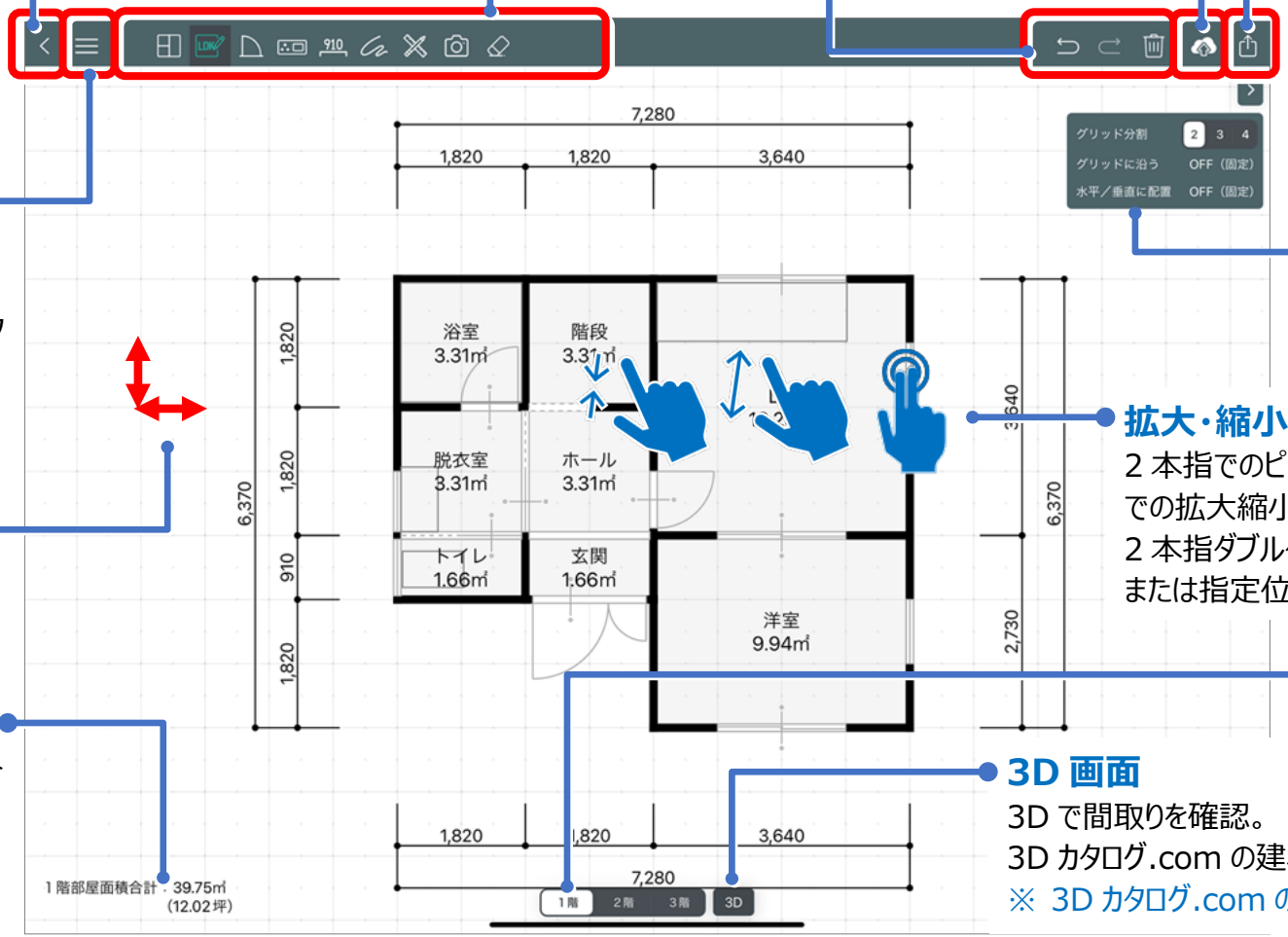
・ 3D カタログ.com の有料契約が必要です（ARCHITREND Drive を介して ZERO に連携）。

※ 2：メーカー建材の割り当てについて

3D カタログ.com のメーカー建材を利用するには、3D カタログ.com の会員登録が必要になります。

2 ①現況を計測しながらフリー入力　2-1　画面まわりの機能

■ 入力画面



ホーム画面
間取りの新規作成、既存データの選択を行います。

ツールバー
壁（部屋）、建具、部品、画像などを入力します。

共通コマンド
Undo、Redo、クリアコマンド

アップロード（ATDrive）
ATDrive に間取りデータをアップします。
※『ATDrive 連携編』を参照

共有ツール
報告書・間取り図を PDF、画像で出力し、メールや LINE で共有します。

メニュー
下図、部屋面積の単位、グリッドの間隔、Apple Pencil モード切替、3D カタログ.com ログインを行います（P.28 参照）。

右上のメニュー
グリッド分割など入力補助に関する設定を行います。

拡大・縮小・移動
2 本指でのピンチイン、ピンチアウト、ドラッグでの拡大縮小、移動が可能。
2 本指ダブルタップにて作図範囲に戻す、または指定位置の 2 倍ズームが可能。

グリッド間隔
1/2、1/3、1/4 のグリッド単位で入力できます。

階変更
階を変更します。

部屋面積の合計値
部屋が入力されている場合に表示されます。
※ 表示位置を右下に変更する方法（P.28 参照）

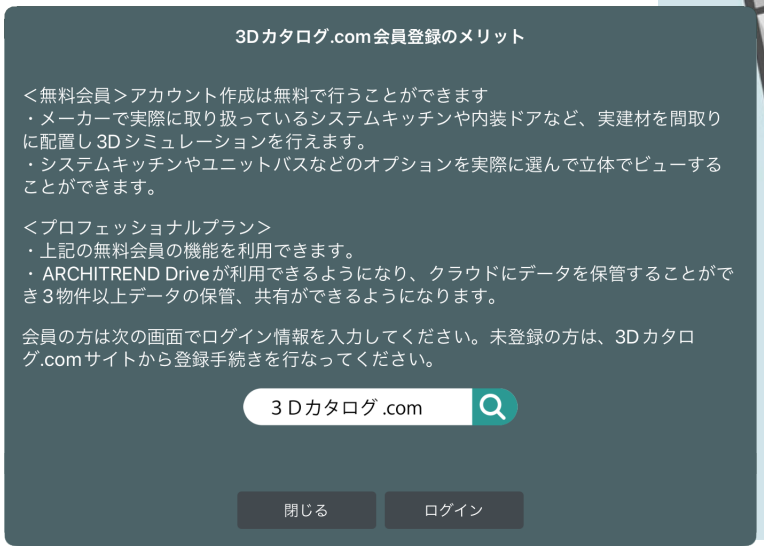
3D 画面
3D で間取りを確認。
3D カタログ.com の建材割当も可能（P.39 参照）
※ 3D カタログ.com の会員登録が必要

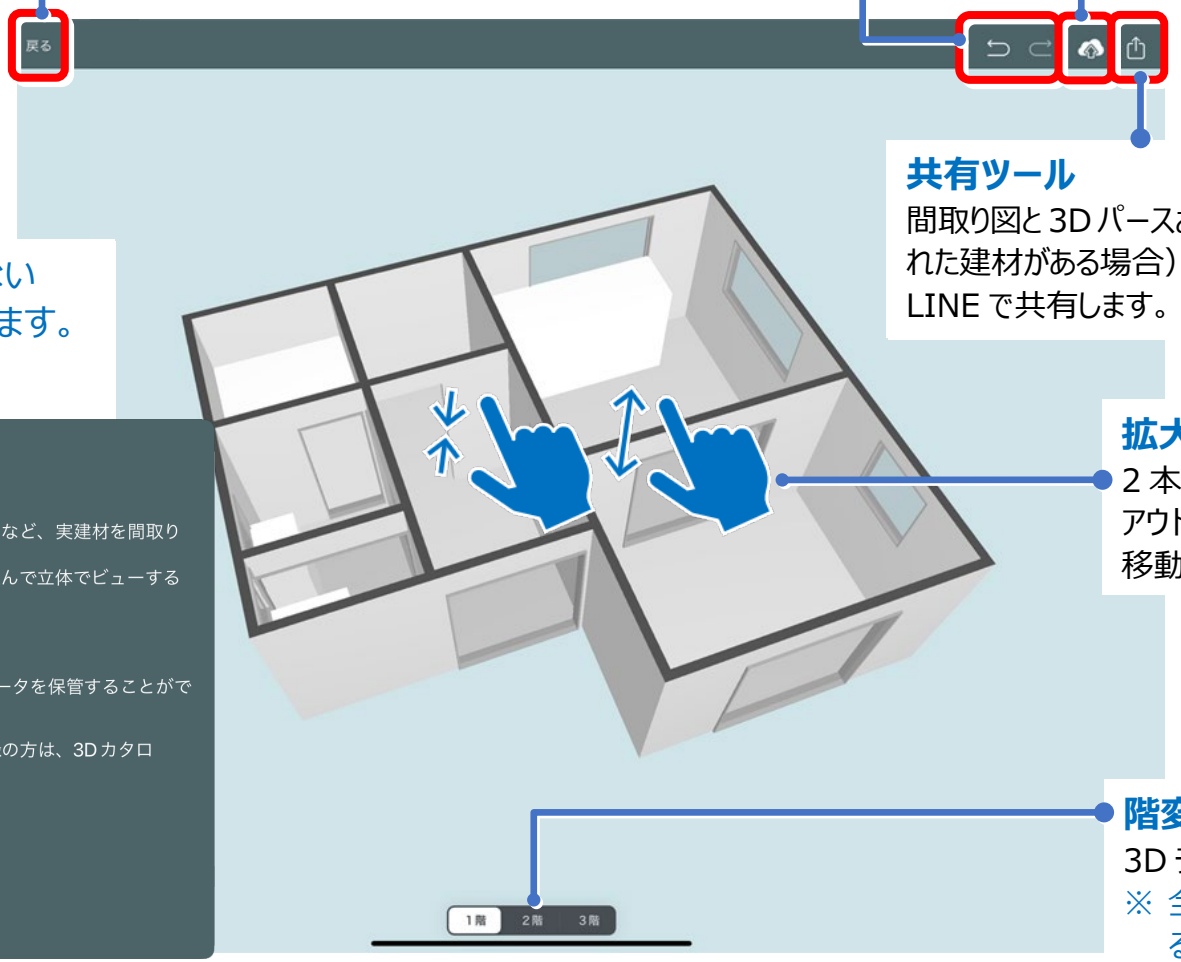
※ 本書の入力画面では、部屋面積のみが表示されていますが、実際には部屋天井高、建具幅、建具高が表示されます。

■ 3D 画面

・ 間取りを 3D で確認します。
・ 3D カタログ.com に会員登録している場合に、3D カタログ.com のメーカー建材を利用できます。
※ 詳しくは、『5. ④3D カタログ.com の建材を割り当てる』P.39 を参照

3D カタログ.com にログインしていない場合、以下の確認画面が表示されます。内容を確認してください。





入力画面
入力画面に戻ります。

共通コマンド
Undo、Redo コマンド

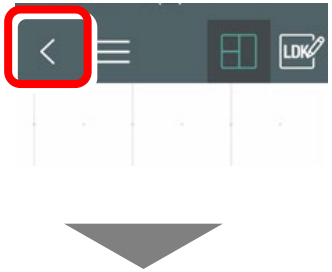
アップロード（ATDrive）
ATDrive に間取りデータをアップします。
※『ATDrive 連携編』を参照

共有ツール
間取り図と 3D パースおよび建材情報（割り当てされた建材がある場合）を PDF に出力し、メールや LINE で共有します。

拡大・縮小・移動
2 本指でのピンチイン、ピンチアウト、ドラッグでの拡大縮小、移動が可能

階変更
3D データの階を変更します。
※ 全階の 3D データを表示することはできません。

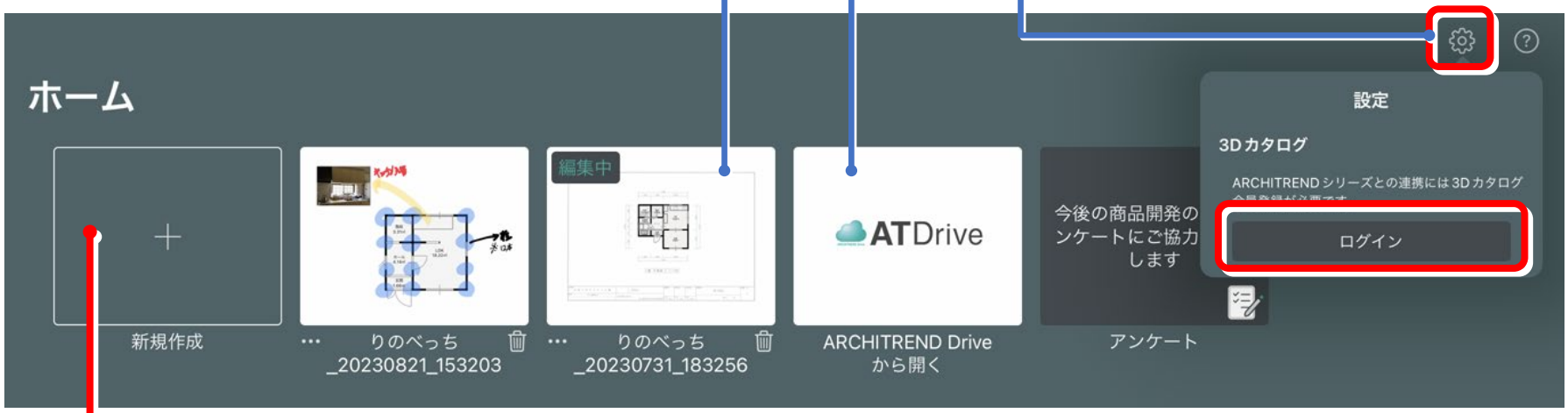
■ ホーム画面



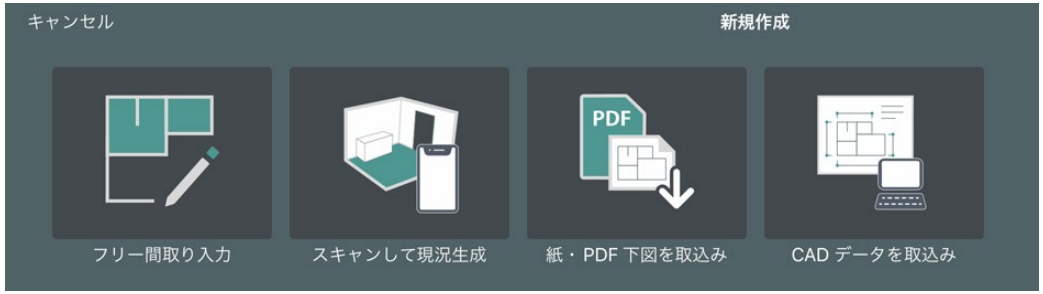
デバイスに保存されている
間取りデータを開きます。
※ 3 つまで保存可能

ATDrive から間取りデータをダウンロードして開きます。
※『ATDrive 連携編』を参照
※ 3D カタログ.com の有料契約が必要

3D カタログ.com にログインします。会員登録により利用できる機能が異なります。
※『ATDrive 連携編』を参照



間取りデータを新規作成します。

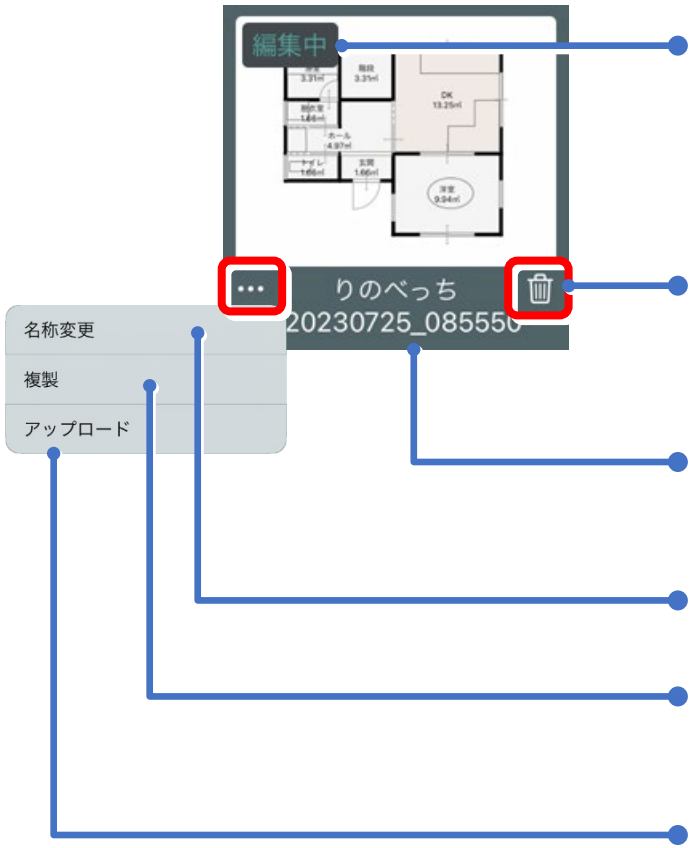


P.2 参照　P.30 参照　P.32 参照　ATDrive 連携編 P.5 参照

※ 3D カタログ.com ログイン時の確認画面

すでにデバイスに 3 つのデータが保存されている場合に表示されます。データを削除してください。

■ データの名称変更・削除・アップロード



直前に編集していたデータであることを示します。

このデータは、 「元に戻す」、 「やり直し」の情報が残っていることを示します。ただし、他の間取りデータを開くと、これらの情報は破棄されます。

間取りデータを削除します。このデバイスから削除され、復元できませんので注意してください。
バックアップしておきたい場合は、ATDrive にアップロードしてください。

間取りデータの名称を表示します。
新規作成すると、名称「りのべっち_日時_時間」で保存されます。

間取りデータの名称を変更します。

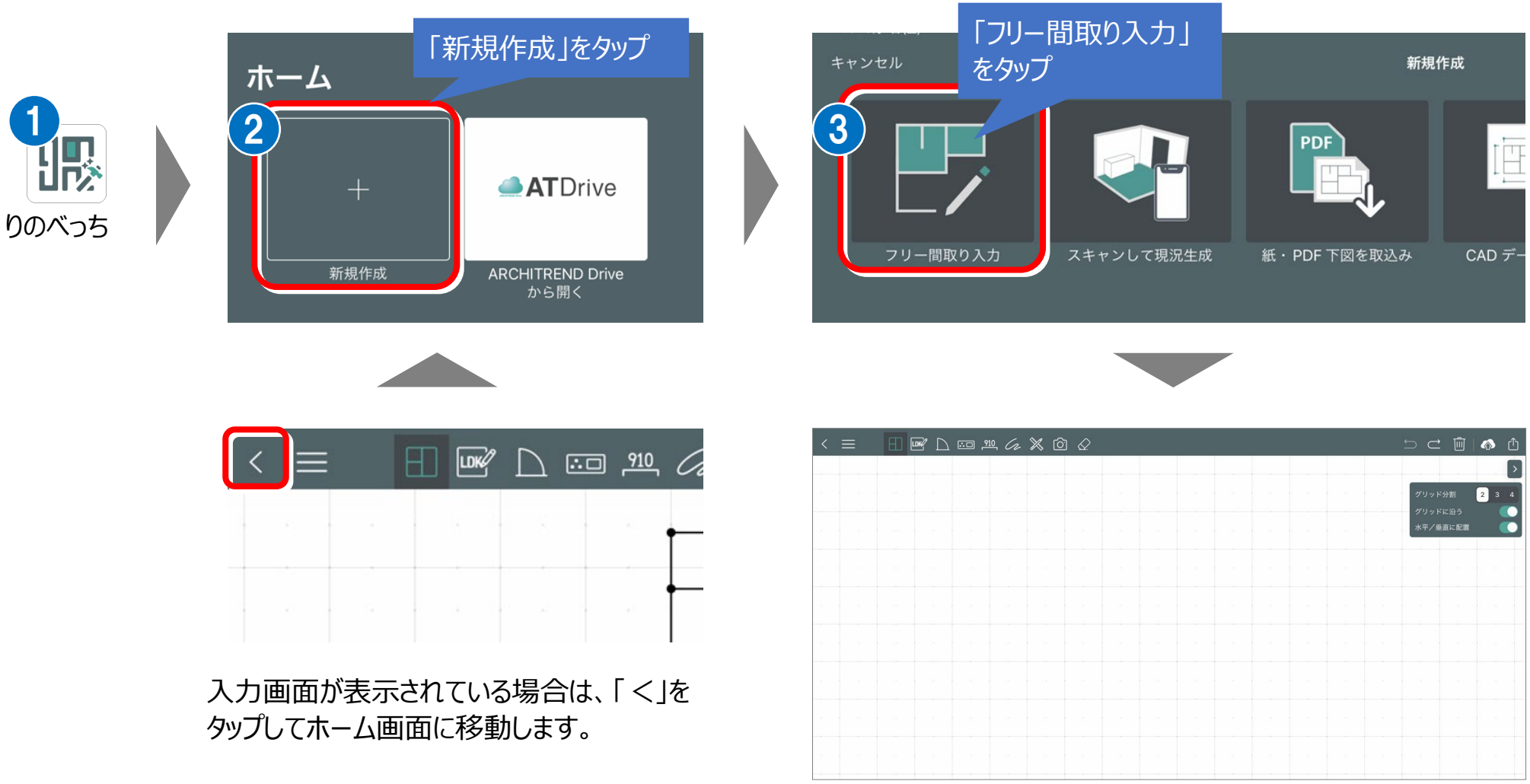
間取りデータを複製します。
※ デバイスには、3 つまでしかデータを保存できません。

間取りデータを ATDrive にアップロードします。
※ 3D カタログ.com の有料契約が必要

2 ①現況を計測しながらフリー入力

2-2 プランを新規作成する

「りのべっち」を起動し、ホーム画面から「新規作成」→「フリー間取り入力」を選びます。



入力画面が表示されている場合は、「＜」をタップしてホーム画面に移動します。

2-3 部屋・壁を入力する

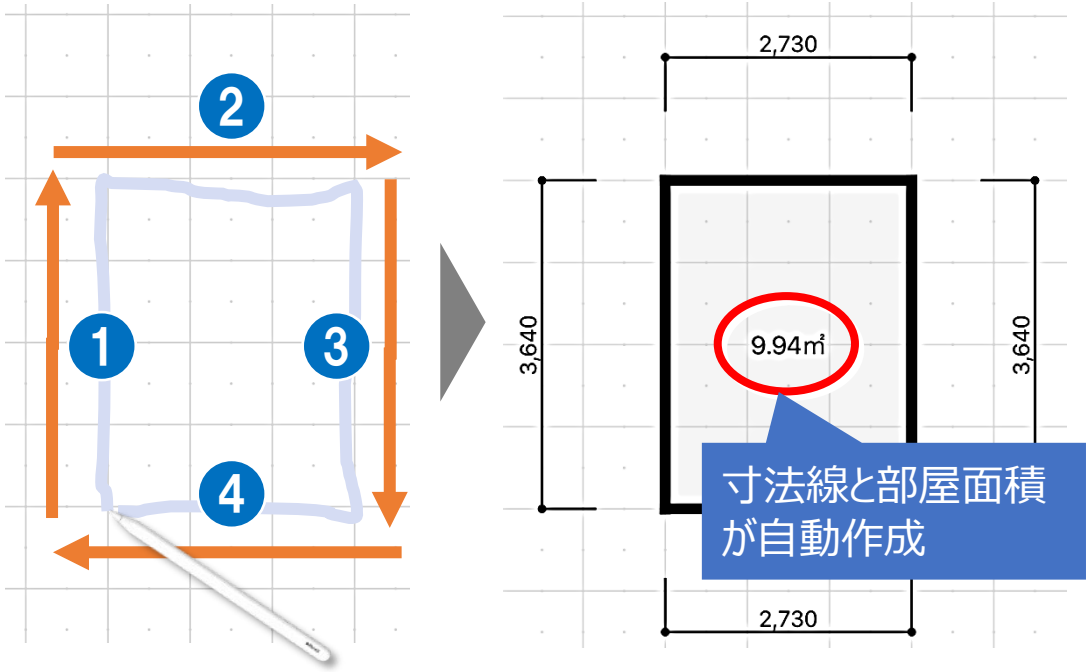
■ 部屋・壁の入力

コマンドをタップします。

ポイント

- グリッド（4 分割対応）を目安に壁をなぞる（一筆書き入力）
- Apple Pencil（P.28 参照）、指、タッチペンなどを使用して入力できます。

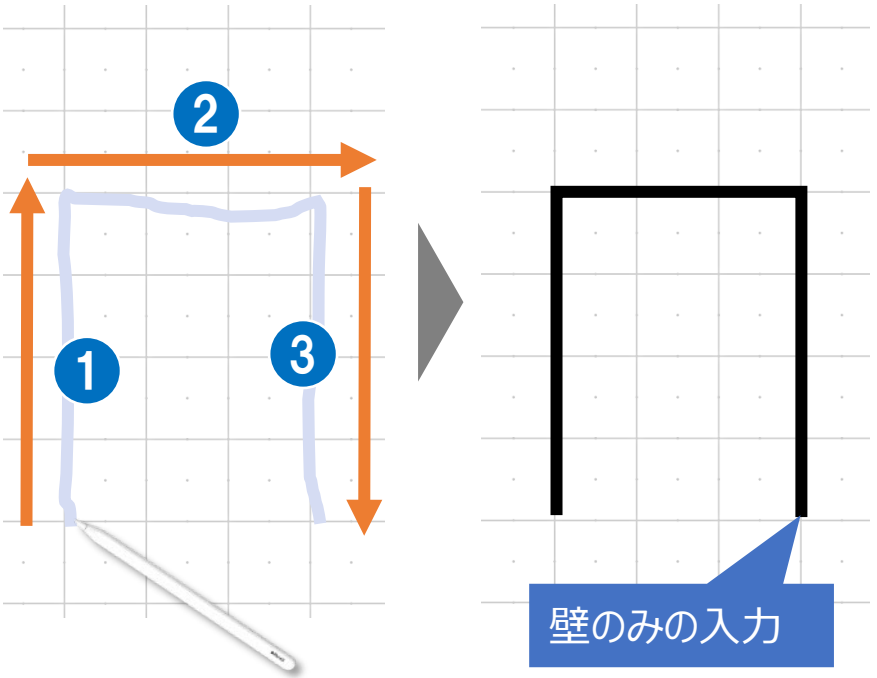
【壁の閉合領域 → 部屋】



※ 部屋面積の単位（㎡・帖）を切り替える方法については、P.28 参照

※ ZERO に連携する場合、部屋の天井高が連携されます。また、3D 画面でも部屋の天井を確認できます。天井高の変更については、P.16 参照

【閉じてない壁 → 壁のみ】



入力済みの壁を伸縮することはできません。

- 袖壁や腰壁は上図のように入力します。たれ壁・腰壁の場合は、壁の入力後に高さを変更します。

※ 壁をたれ壁・腰壁に変更する方法は、P.12 を参照

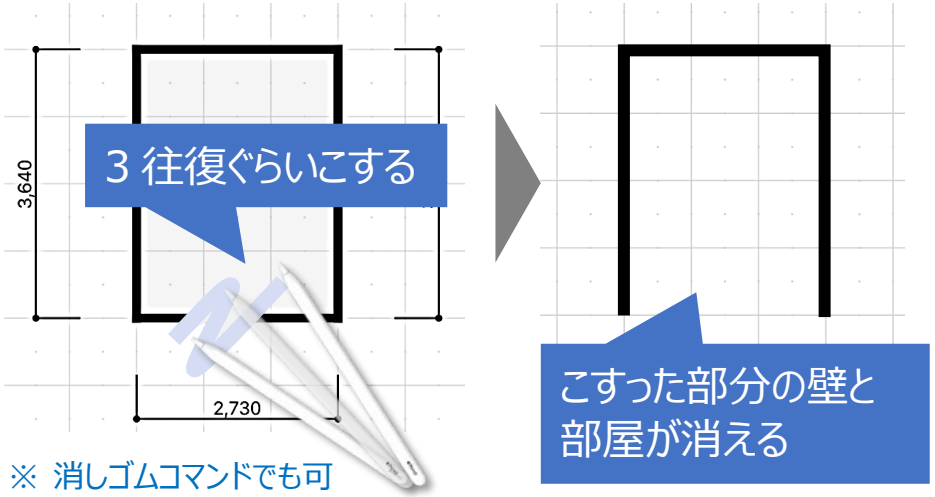
■ 部屋の編集・壁の削除方法

コマンドの状態でも操作します。

ポイント

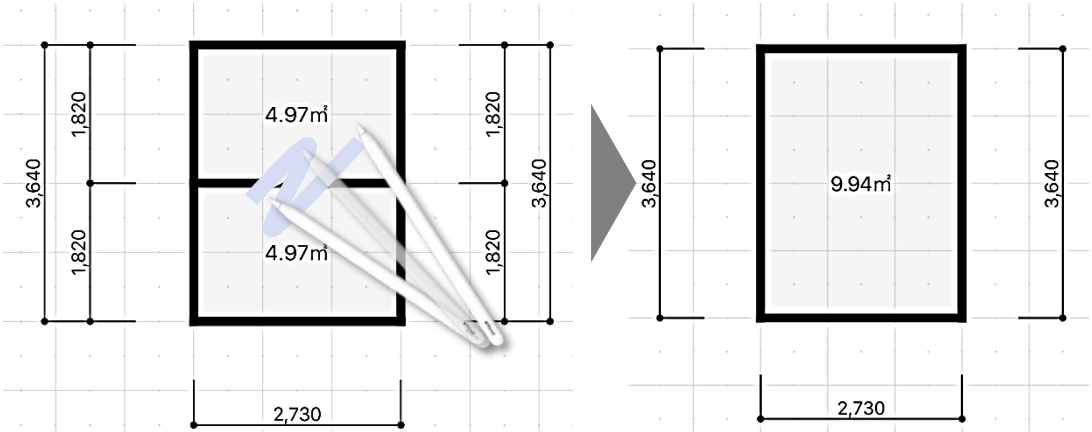
- 3 往復ぐらい擦ると、壁などを削除できる
- 壁を削除することで部屋を合成する
- 壁を追加して、部屋を分割、または部屋形状を変更する

【不要な壁を削除する】

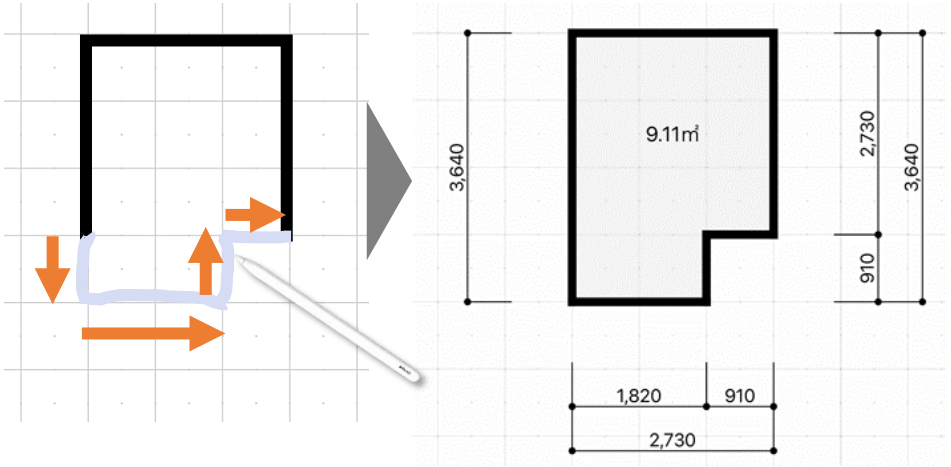


※ 消しゴムコマンドでも可

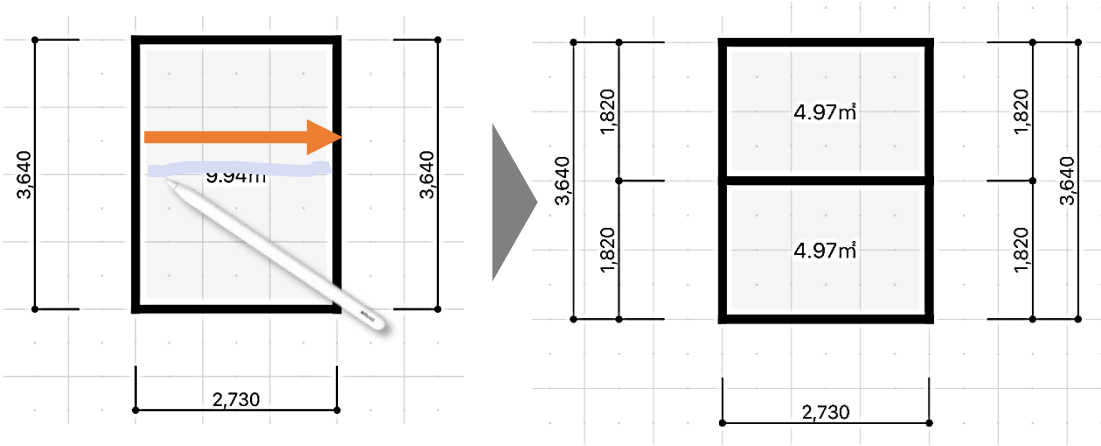
【壁を削除し部屋を合成する】



【壁を追加して部屋にする】



【壁を追加して部屋を分割する】



2-4　部屋名を入力してみましょう

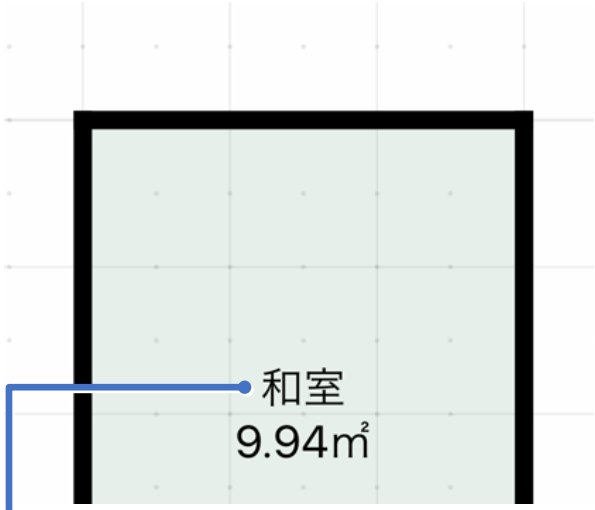
コマンドをタップします。

ポイント

- 部屋の領域内に文字を手入力し、部屋名のリストから選択
- キーボードを使って名称を入力

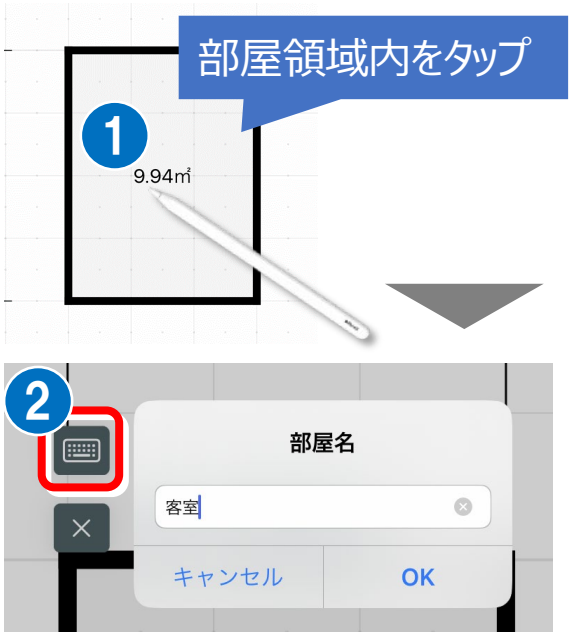
【手入力して候補から選択する】

文字入力をやり直す場合は、
「×」をタップします。



- 名称を変更する場合は、同様に再入力します。
- 手入力により候補から選択した場合、指定された色で塗り潰されます。
- 候補に挙がった部屋名を選択すると、ZERO 連携で適切な部屋マスタが割り当たります。

【キーボードで入力する】



- 文字を入力した際、リストに部屋名がない場合は、キーボードで入力します。
- 部屋内をタップしても、同様にキーボードアイコンが表示されます。
- ZERO 連携において、部屋名で識別できない場合、「洋室」の部屋タイプで連携します。

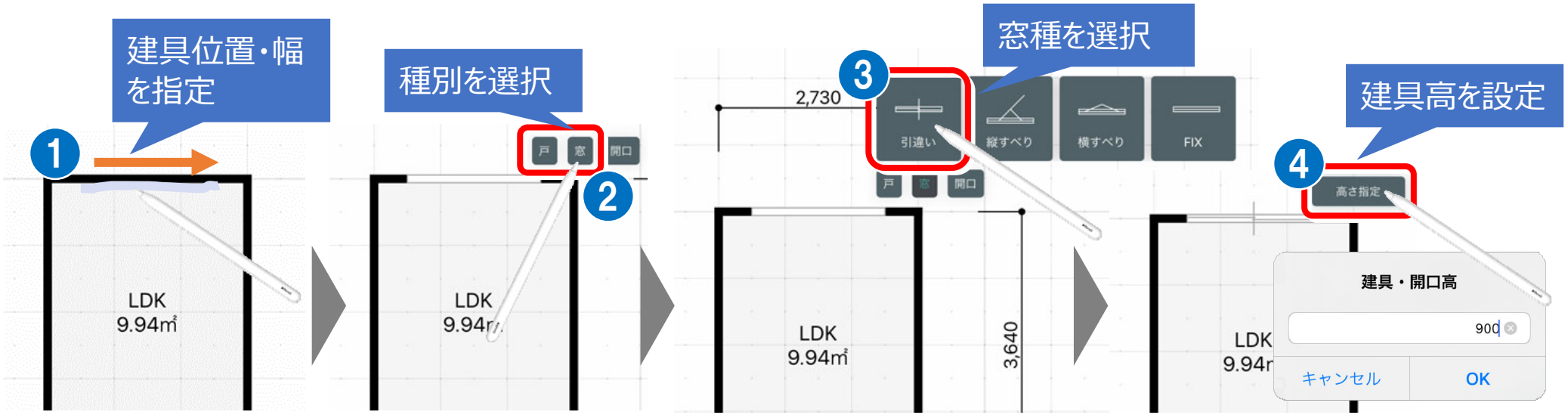
2-5 建具・開口を入力する

■ 建具を入力する

コマンドをタップします。

ポイント

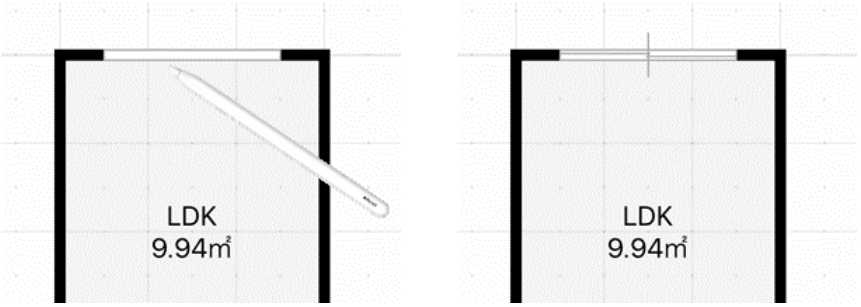
- グリッドを目安に建具位置・建具幅を壁上で指定する
- 入力可能な建具は、以下の通り
  戸（片開/親子・引違い・折戸/両折戸・片引戸）
  窓（引違い・縦すべり・横すべり・FIX）



種別を選択せず、開口のみを手早く入力してもかまいません。

※ 開口幅を数値で変更したい場合は、P.17 参照

※ 入力後に種別を追加することはできません。再度建具を入力する必要があります。



高さは指定しなくてもかまいません。

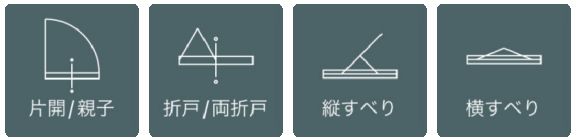
※ 高さを指定しない場合、種別に応じてデフォルトの数値が設定されます。

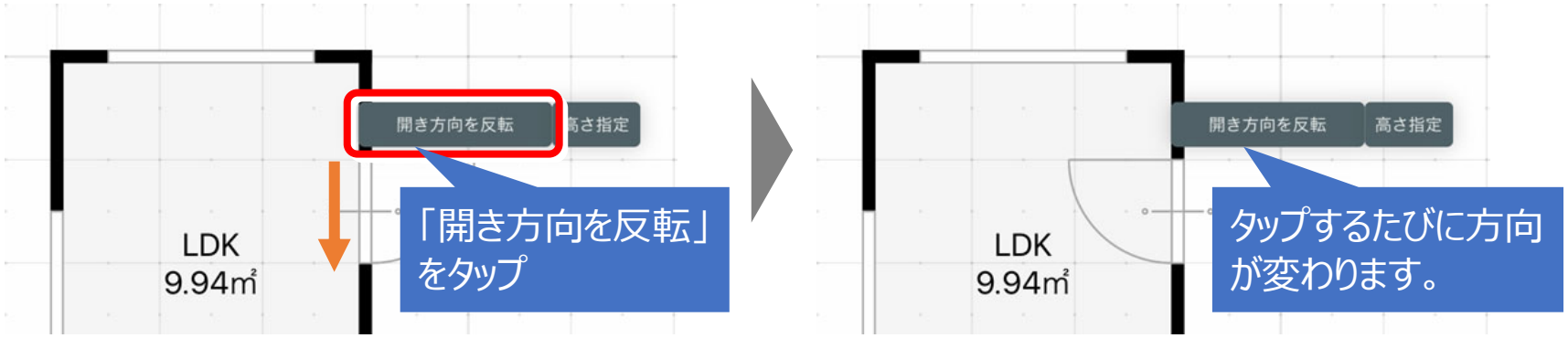
※ ZERO に連携する場合、指定した窓種、建具高で連携します。

※ 入力後に高さを変更したい場合は、P.17 参照

■ 開き戸など開き方向がある場合

開き方向のある建具は、方向の変更ができます。





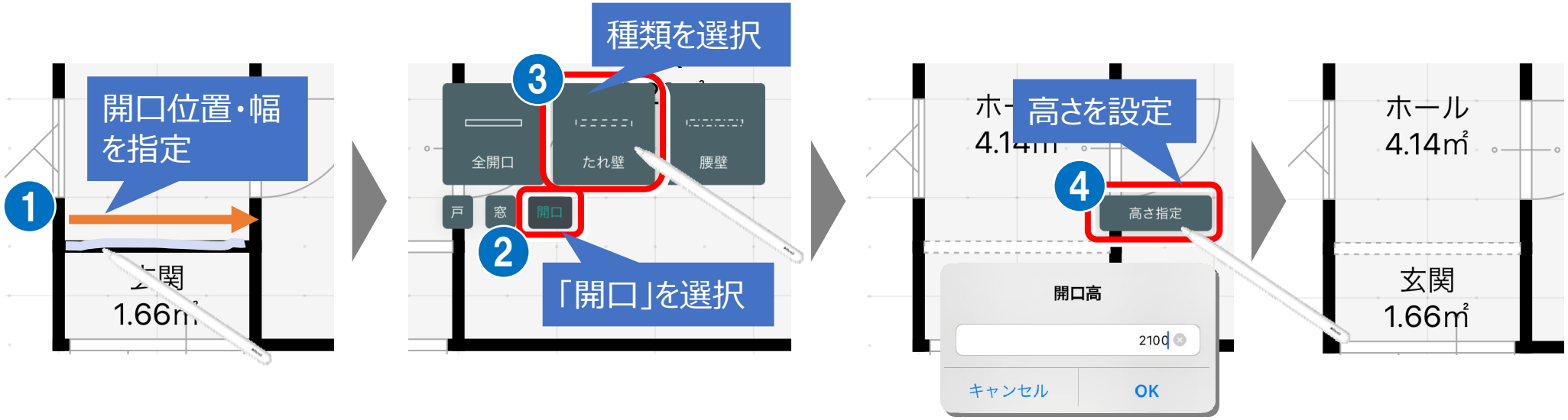
入力 1 点目が吊元になります。

■ 開口・たれ壁・腰壁を入力する

ポイント

- グリッドを目安に開口幅を壁上で指定する
- 入力可能な開口種別は、開口（全開口・たれ壁・腰壁）

コマンドをタップします。



- 「腰壁」の場合は、「高さ指定」で腰高を指定します。
- 「たれ壁」の場合は、たれ壁下端までの高さを指定します。
- 高さは指定しなくてもかまいません。

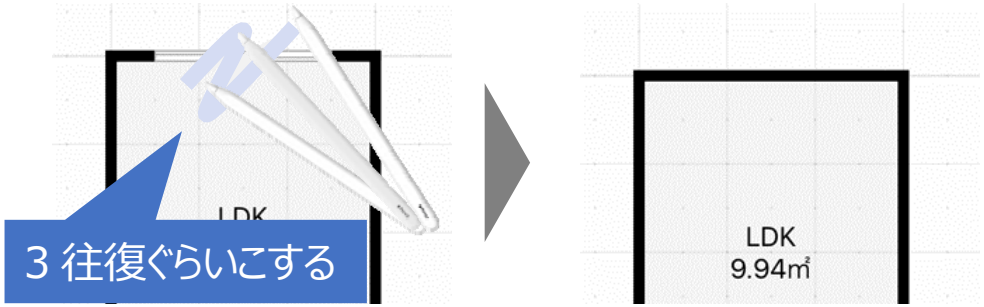
※ 高さを指定しない場合、開口の種類に応じてデフォルトの数値が設定されます。

※ ZERO に連携する場合、指定した開口高さで連携します。

※ 入力後に高さを変更したい場合は、P.17 参照

■ 建具・開口を削除する

建具・開口の部分だけを、3 往復ぐらいこすります。



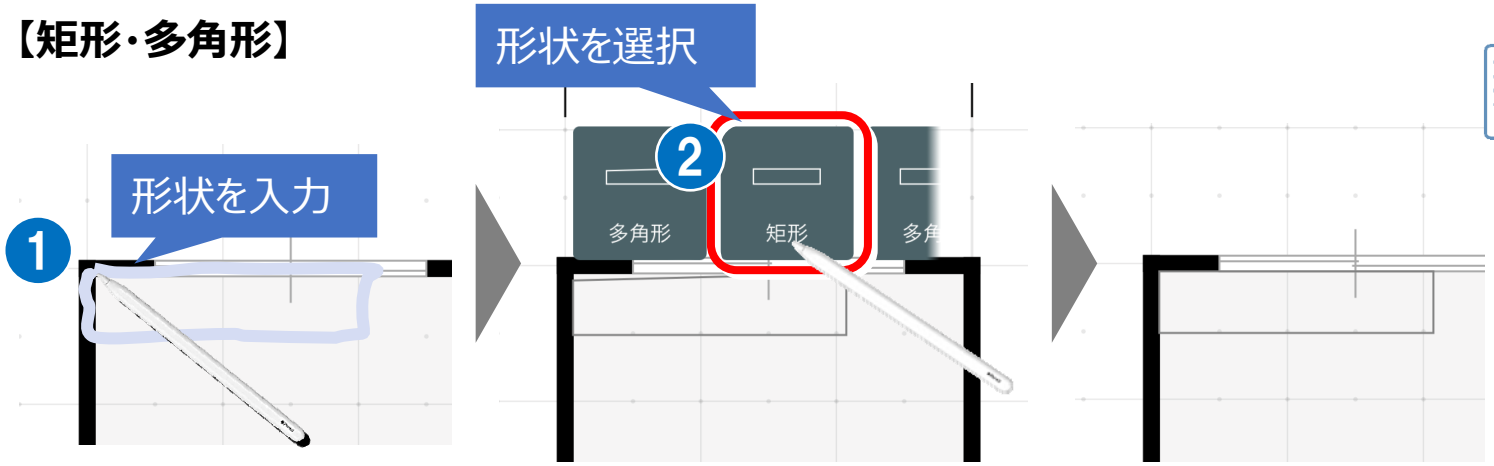
2-6 部品を入力する

コマンドをタップします。

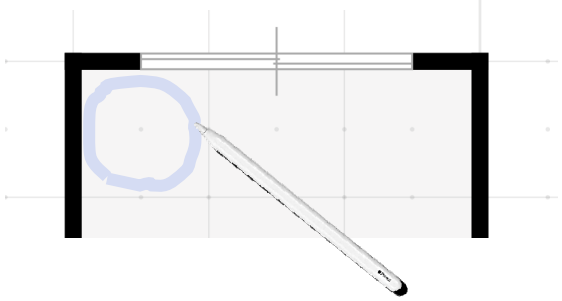
ポイント

- 住宅設備機器や家具の位置・形状（アウトライン）をフリーハンドで入力します。
- 形状は、矩形、多角形、円形、楕円形
- 入力した部品を移動することはできません。
- このデータをもとに、3D カタログ.com のメーカーの設備機器等を設定します（P.39 参照）。
- 入力した形状に応じて、3D カタログ.com の部品は変形しません。

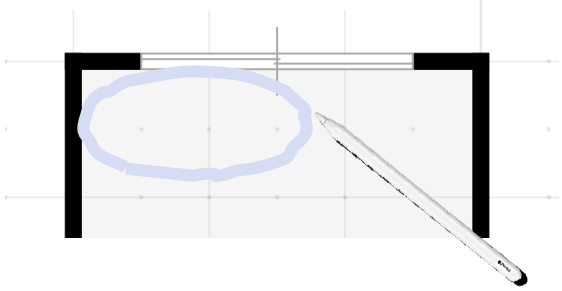
【矩形・多角形】



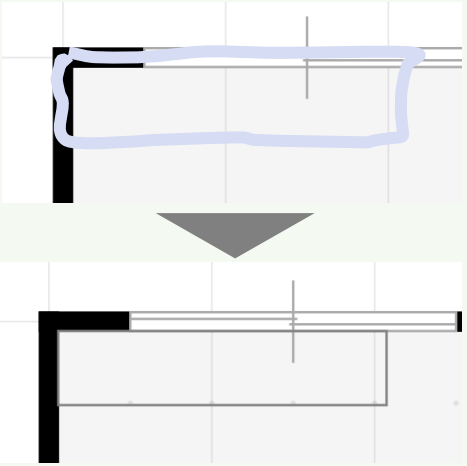
【円形】



【楕円形】



- 壁からはみ出した入力は、壁の内面に自動調整
- 右上メニューの「グリッドに沿う」は OFF（固定）のため、グリッドに沿って入力できません。



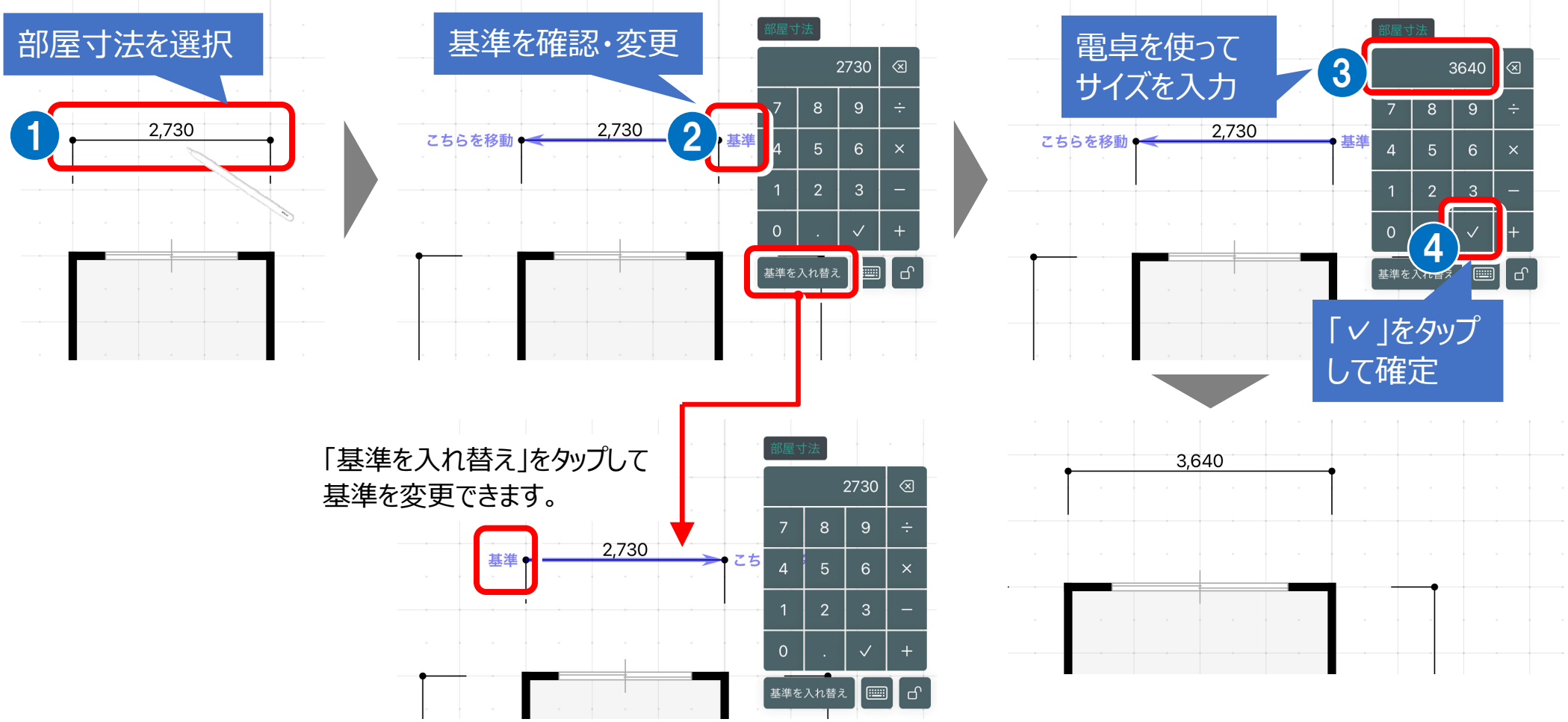
2-7 寸法・サイズを編集する

910 コマンドをタップします。

ポイント

以下の入力済のデータの寸法・サイズを変更します。
- 部屋：部屋の寸法、天井高
- 建具・開口：幅、高さ

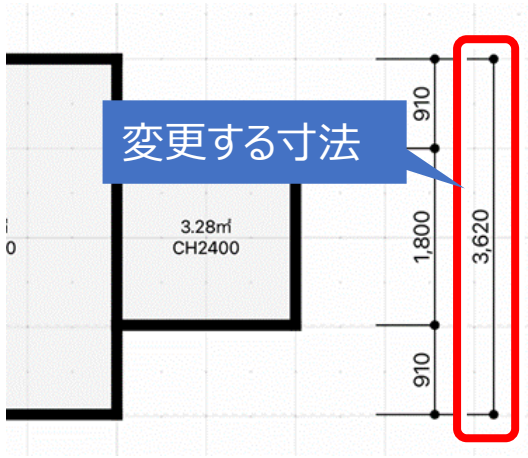
【部屋の寸法を変更する】

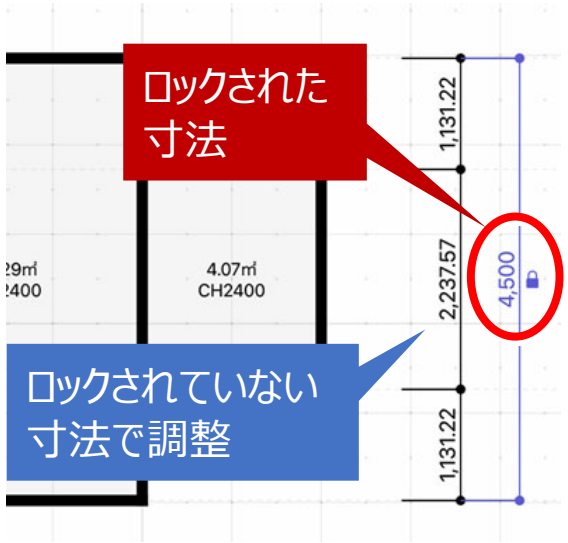


【部屋の寸法をロックする】

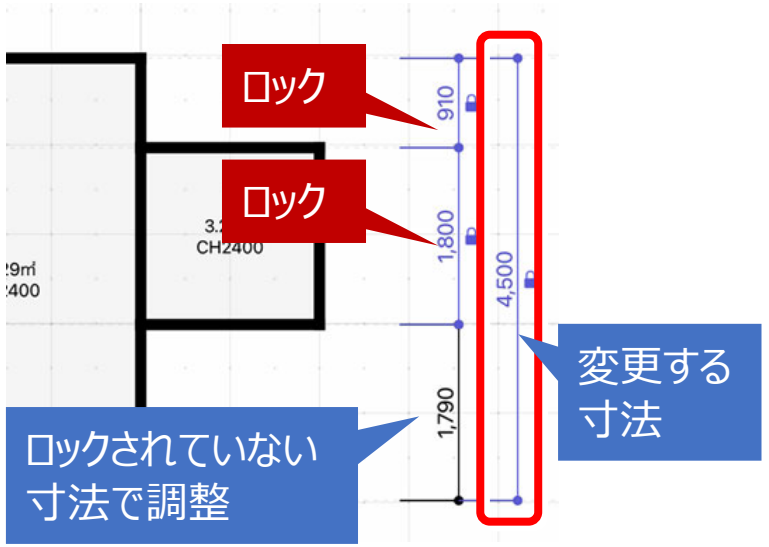
部屋寸法を変更した際、指定した寸法が変更されないよう、部屋寸法をロックすることができます。

部屋寸法の編集を行うと、自動的にロックがかかります。寸法線が青色となり、ロックのアイコンが表示されます。



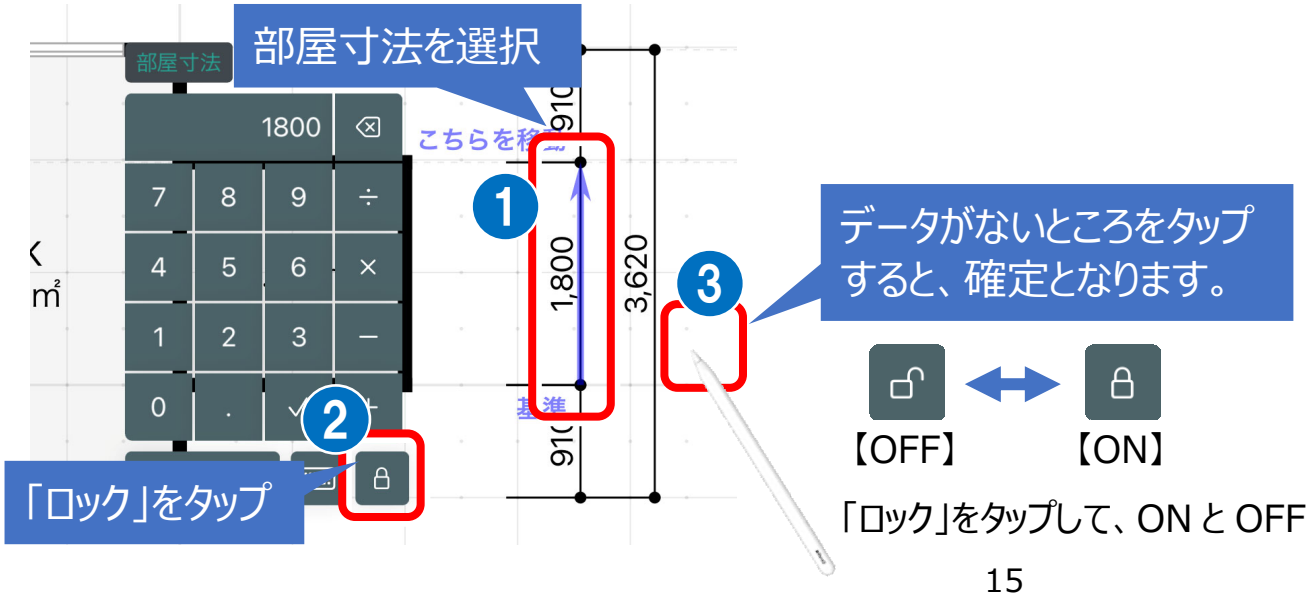


【ロックなしの場合】



【ロックありの場合】

部屋寸法をロックする方法



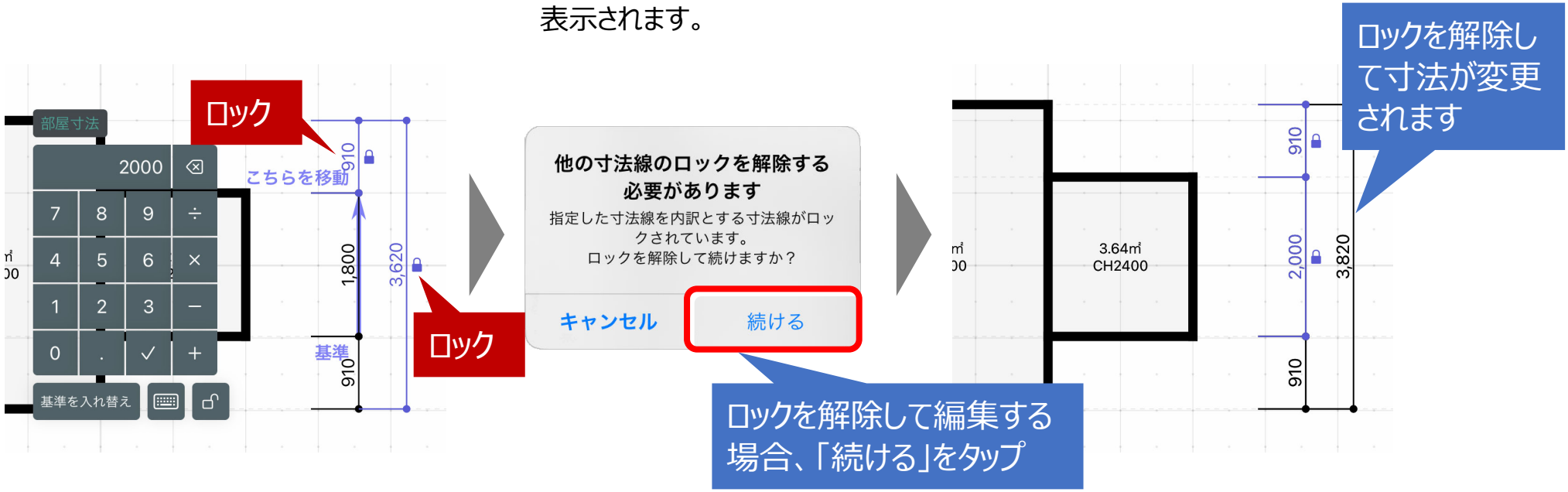
データがないところをタップすると、確定となります。

【OFF】 【ON】

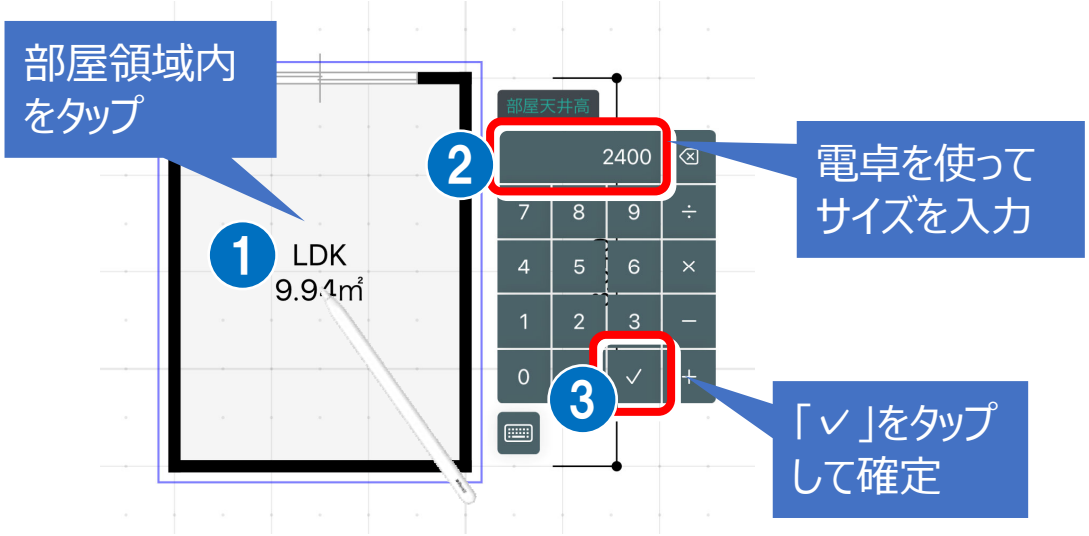
「ロック」をタップして、ON と OFF を切り替えます

【部屋の寸法のロック解除について】

指定した寸法線の範囲を含み、より大きな寸法線がロックされていて寸法編集ができない場合、解除の確認メッセージが表示されます。



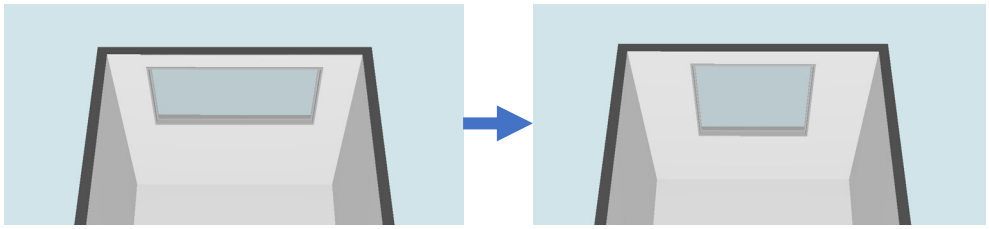
【部屋の天井高を変更する】



ZERO に連携する場合、ZERO に間取りデータを取り込んだ際に、ZERO の部屋属性の天井高に連携します。

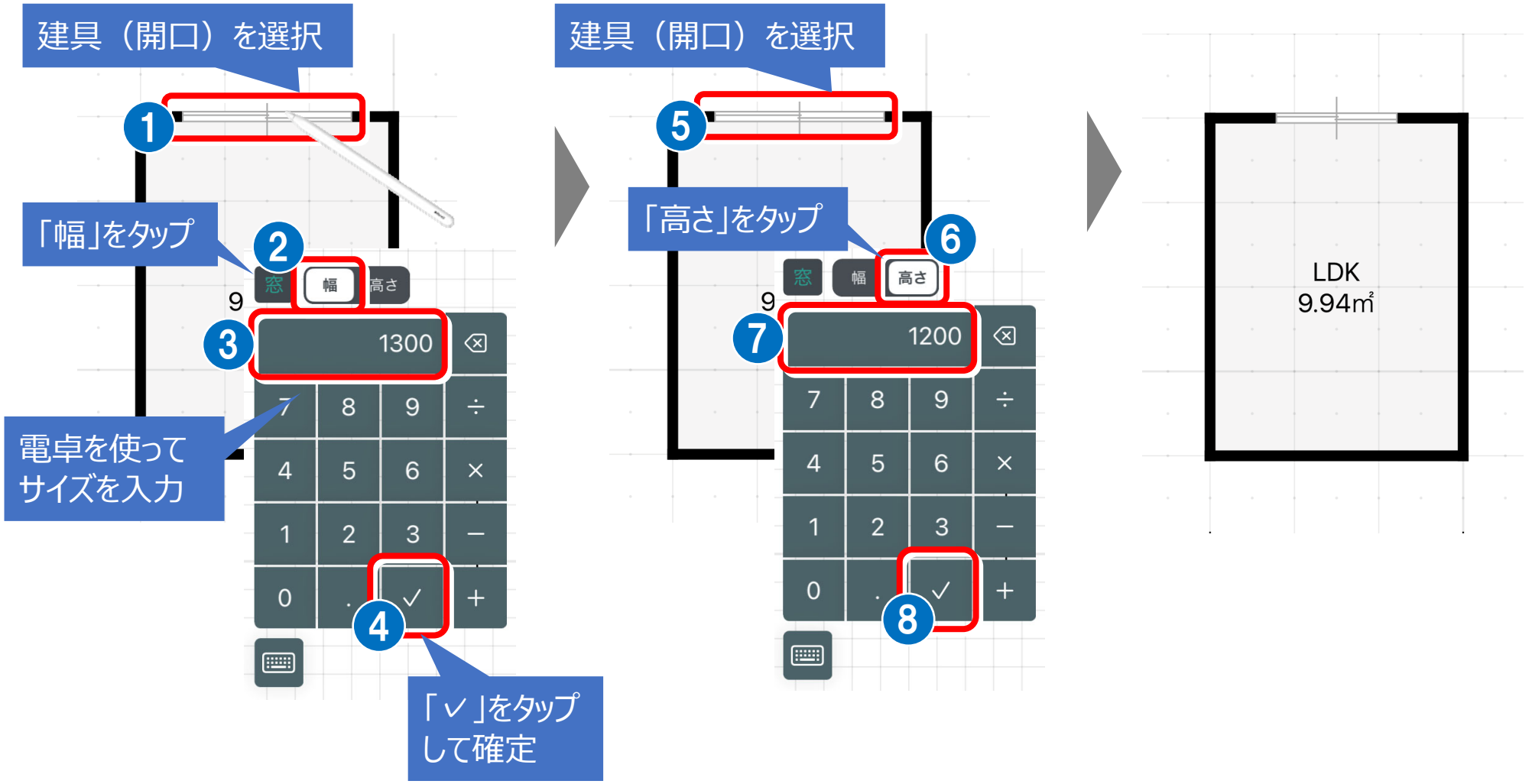
【開口幅・開口高を変更する】

910 コマンドをタップします。



【3D ビュー】

※ 次図は、開口幅、開口高を続けて変更した場合の操作です。



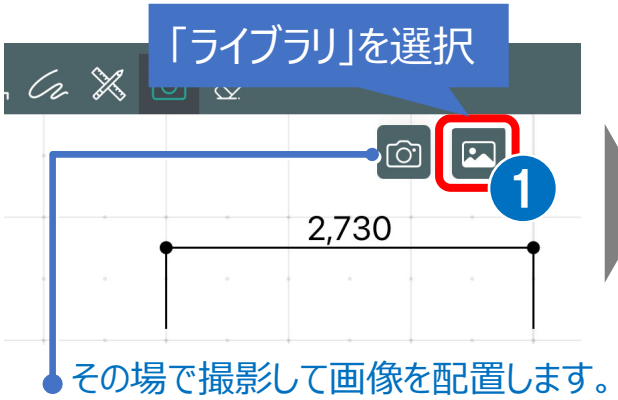
2-8 画像を配置する

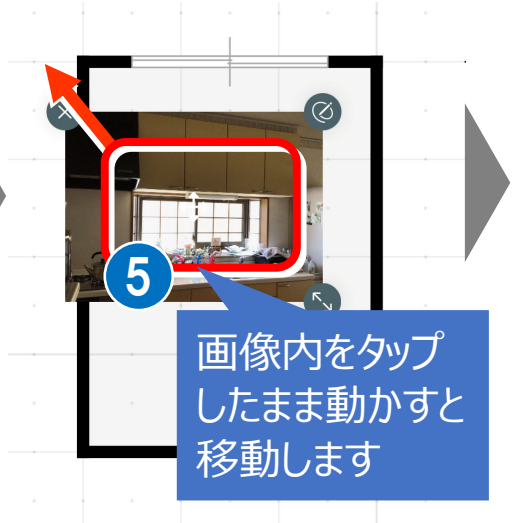
コマンドをタップします。

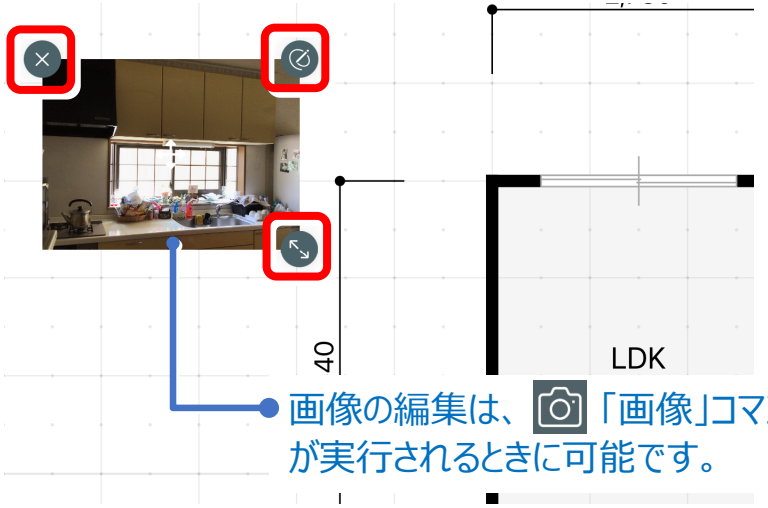
ポイント

- 現況の写真、設備機器などカタログ写真などを配置します。
- ライブラリに保存されている画像を選択
- その場で撮影して写真を配置することも可能

【ライブラリから画像を配置する】







【画像に文字・線分を入力する】

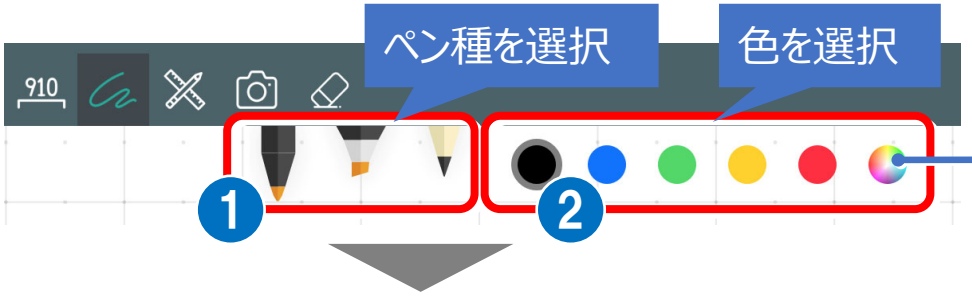
2-9 フリーハンドで文字・線を入力する

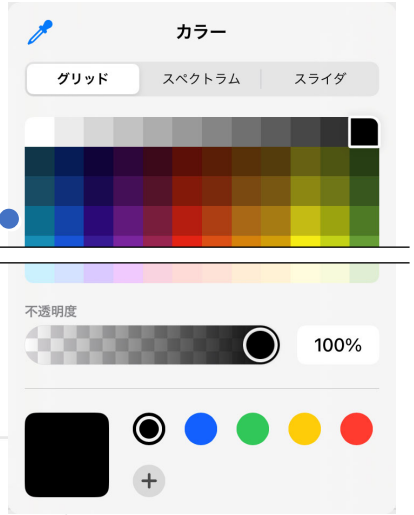
コマンドをタップします。

現況の柱や筋かいの位置を示す○印や、特記を描く場合に使用します。

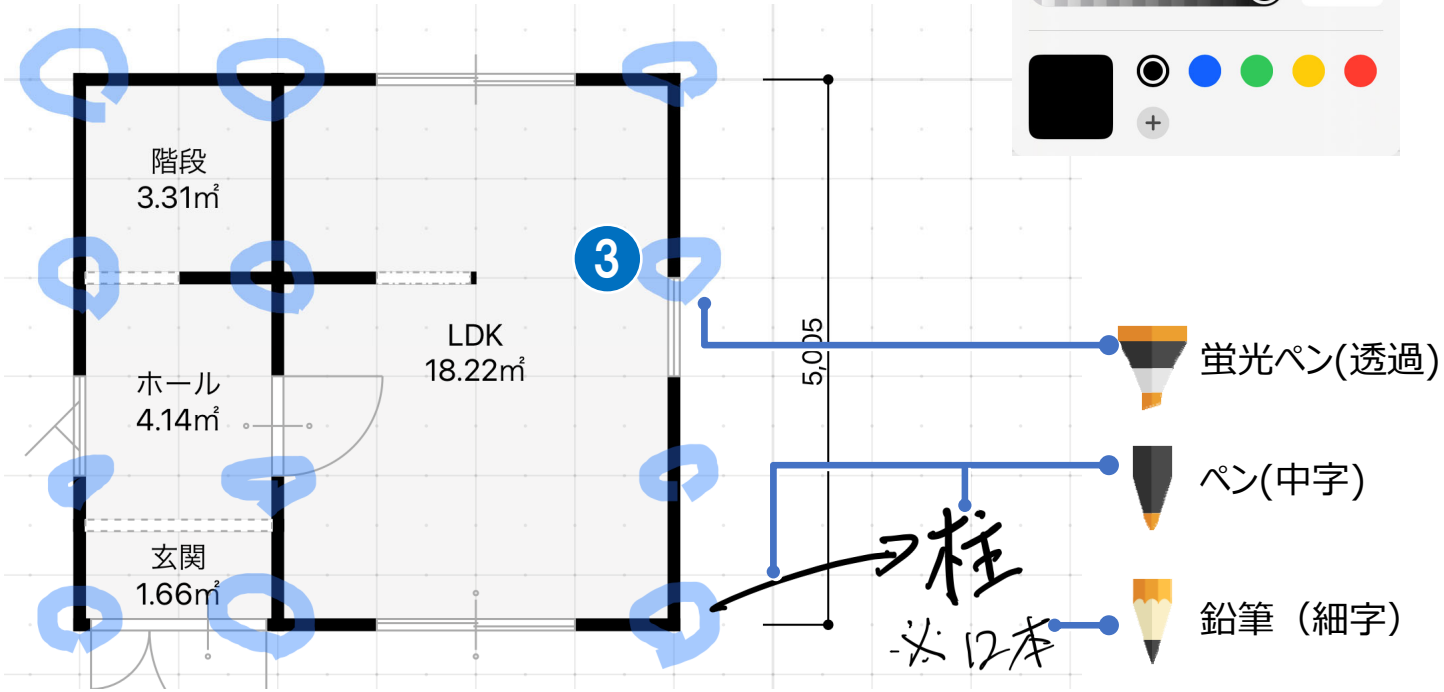
ポイント

- 太さや色を指定してフリーハンドで入力できます。
- 特記やイラストなどを必要に応じて追加します。





カラーをグリッド、スペクトラム、スライダより指定でき、不透明度も指定可能



イラストはフリーでの入力のため、右上メニューの「グリッドに沿う」「水平／垂直に配置」はOFF 固定となります。

入力したイラストデータを削除する場合には、**「消しゴム」コマンド**をご利用ください。

Apple Pencil での入力時は、筆圧に応じて線幅が変わります。

2-10 間取り図を共有・印刷する

コマンドをタップします。

作成した現状図、3D での建材シミュレーションの結果、住宅設備や建材の提案シートを PDF で出力します。

※ 建材シミュレーションは、『5. ④3D カタログ.com の建材を割り当てる』P.39 を参照

ポイント

- 入力画面からは間取り図を PDF 出力
- 3D 画面からは間取り図、およびパース、3D で割り当てた 3D カタログ.com の建材一覧を PDF で出力

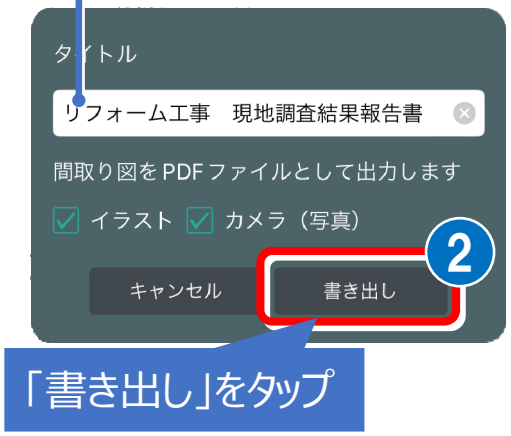
【間取り図の報告書を共有・印刷する】

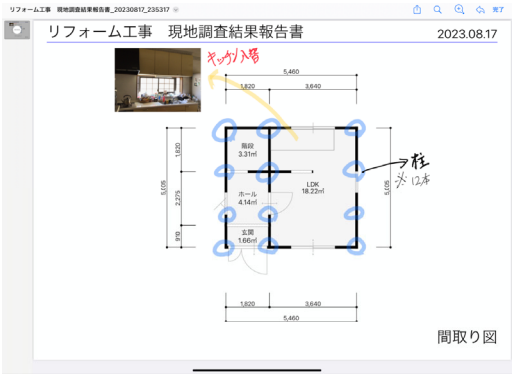
【入力画面】

- 間取り図（画像）
- 間取り図（PDF）

こちらのコマンドでは、入力画面の表示状態を画像、PDF に出力して、メールや SNS ツールにて共有します。

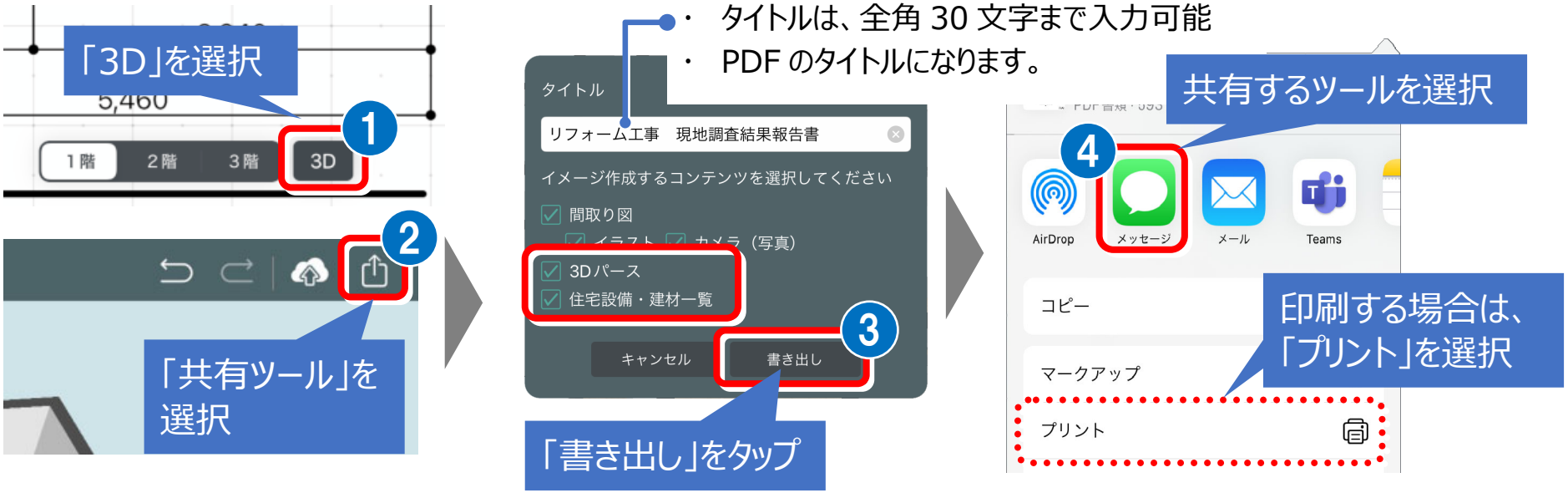
- タイトルは、全角 30 文字まで入力可能
- PDF のタイトルになります。

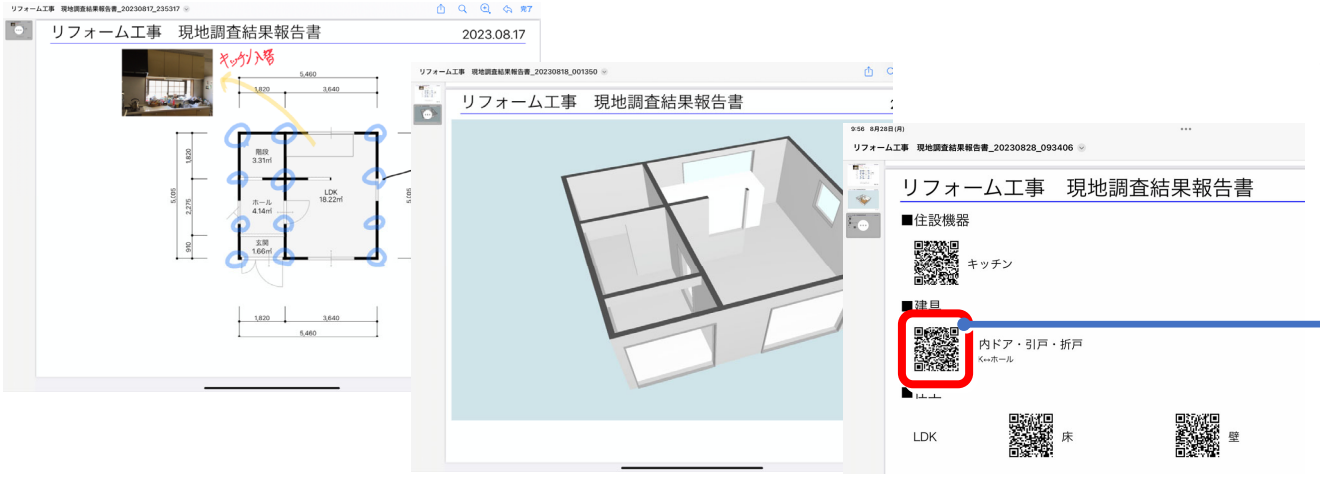




【間取り図・パース・建材の報告書を共有・印刷する】

3D パース、住宅設備・建材一覧の報告書は、3D 画面の「共有ツール」からのみ出力可能となります。
※ 住宅設備・建材一覧は、部品、建具、壁などに 3D カタログ.com のメーカー建材を割り当てている場合に出力されます。
次図は、メーカー建材を割り当てた状態のものです（割り当てについては P.39 参照）。





QRコードを読み取ると、3D カタログ.com の 3D シミュレーションにアクセスし、住宅設備や建材を確認可能

2 ①現況を計測しながらフリー入力

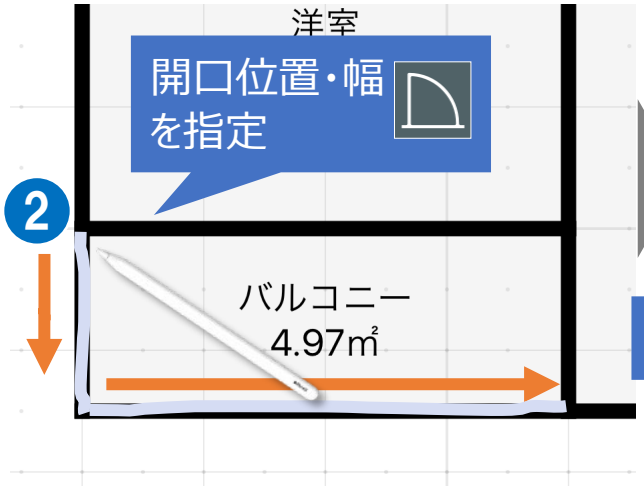
【補足】 バルコニーを表現するには

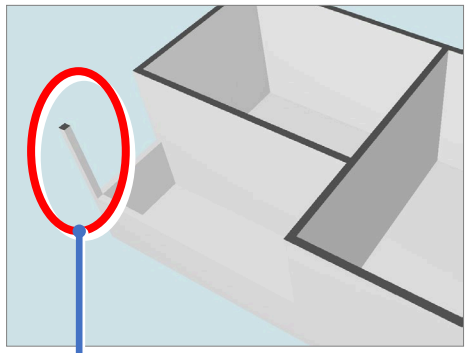
コマンドを使用してバルコニーを入力します。

コマンド（開口：腰壁）を使用して手摺壁を表現します。

ポイント

- 3D での確認
- ZERO 連携にてバルコニーを自動作成することできます。
- 上記が不要という場合は、連続線コマンドで作図する（P.24 参照）





L 字など端部には柱が残ります。

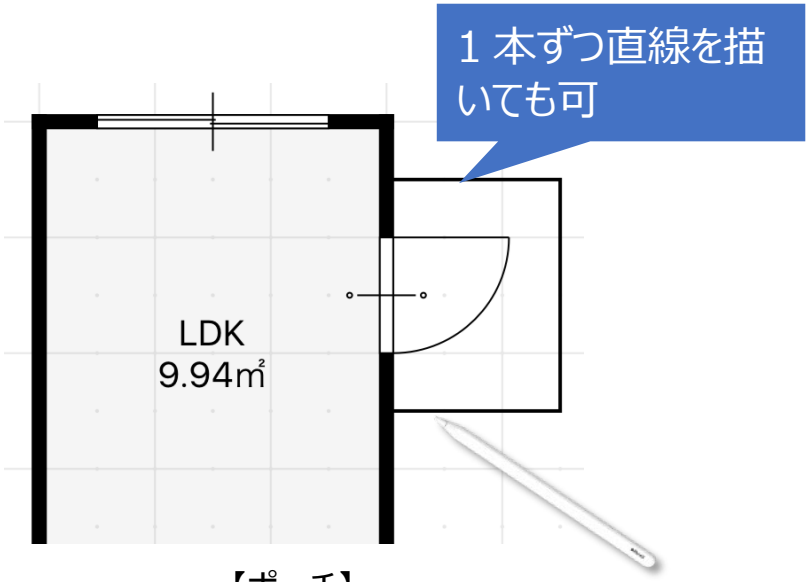
【補足】 連続線を入力する

コマンドをタップします。

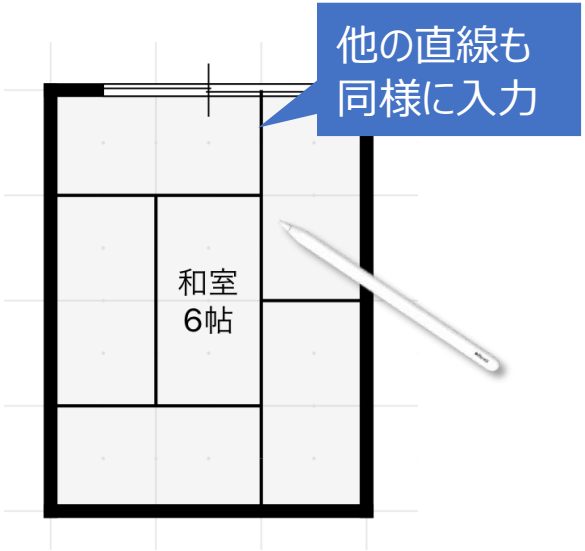
ポイント

- グリッド（2 分割）点を結んだ**直線**を入力（主に水平垂直の線）
- 用途としては、ポーチ、犬走り、階段、畳目地など

【例：ポーチや畳目地を表現する】

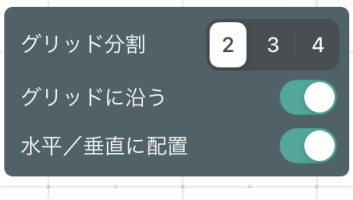


【ポーチ】



【畳目地】

「連続線」コマンドは、右上メニューの「グリッドに沿う」「水平／垂直に配置」を ON にすることで、グリッドに沿うように入力できます。



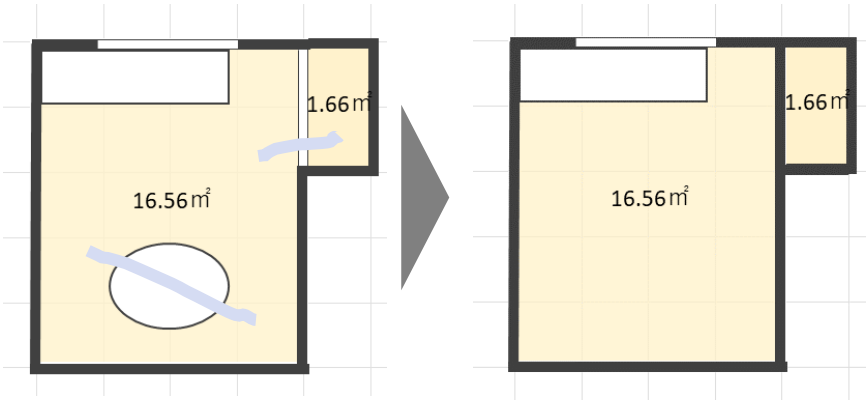
2 ①現況を計測しながらフリー入力 【補足】 その他機能

【データの削除】

消したいデータをまたぐようにこすります。

※ 「部屋・壁」コマンドなどを実行している場合は、3 往復することでデータを削除します。操作が異なりますので注意してください。

※「イラスト」コマンドで入力したデータを削除する場合は、このコマンドでデータを削除してください。



【元に戻す（Undo）・やり直し（Redo）】

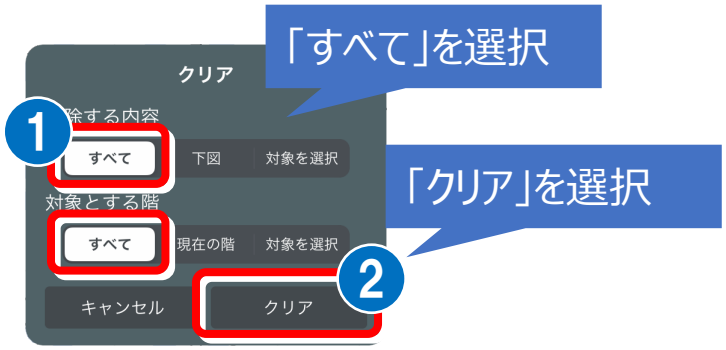
元に戻す（Undo）　：1 つ前の状態に戻します。

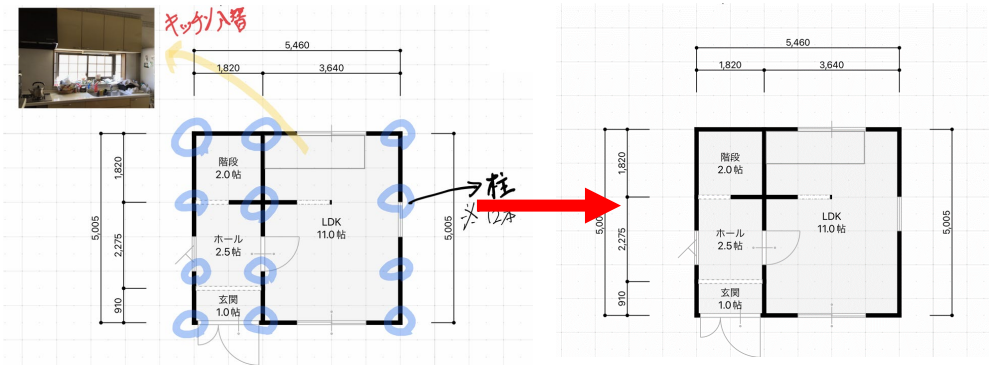
やり直し（Redo）　：「元に戻す」で取り消した操作を再実行します。

【ごみ箱】

削除するデータを指定して、入力されているデータを削除します。

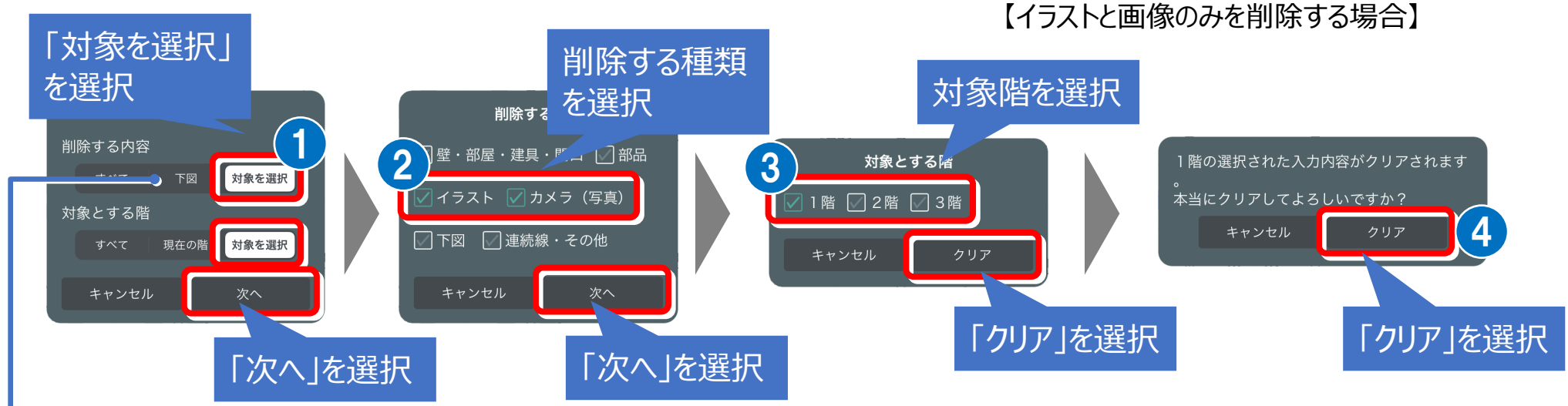
入力されているデータを全て削除する場合





【イラストと画像のみを削除する場合】

入力されているデータ・階を指定して削除する場合

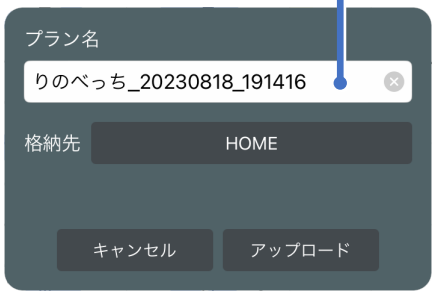


下図を削除する場合、「下図」を選択します。

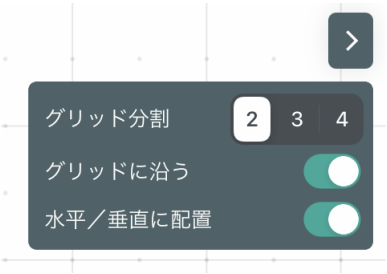
【アップロード】

3D カタログ.com の ATDrive に間取りデータ、下図、現場写真をアップロードします。
アップロードしておくことで、いつでもダウンロードして利用することができます。
※ ATDrive を使用するには、3D カタログ.com の有料契約が必要になります。
※ 詳しくは、『ATDrive 連携編』を参照してください。

プラン名の初期値は、
「プラン名_日時_時間」で保存されます。



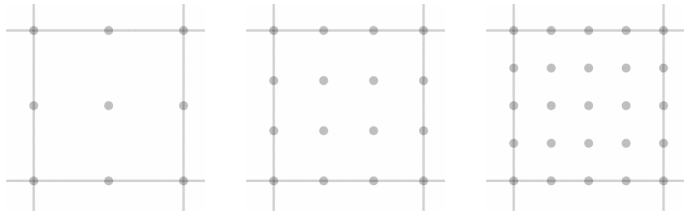
【右上メニュー】



【下図がある場合】

グリッド分割

- グリッドを 2、3、4 分割できます。分割数を増やすことで入力点を細かくできます。



グリッドに沿う

- ON にすると、グリッドに沿うように入力できます。
- コマンドによっては、OFF 固定となるものがあります（部屋名、イラスト）。

水平／垂直に配置

- ON にすると、水平方向、垂直方向のみの入力となります。
- コマンドによっては、OFF 固定となるものがあります（部屋名、イラスト）。

下図

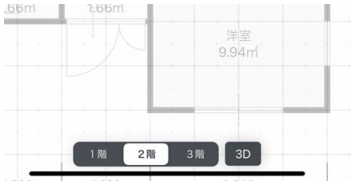
- 下図の表示状態を非表示、控えめ（下図半透明、壁通常）、優先（下図通常、壁半透明）に切り替えることができます。入力して壁と重なって見にくくなった場合などに利用します。
- 下図がない場合は、この設定は表示されません。

【補足】 左上のメニュー

【設定】

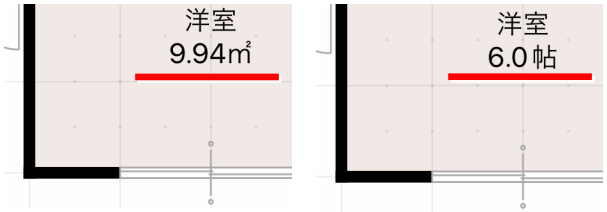
下階を背景表示

・ ON にすると、１つ下の階で入力した間取りを淡色でバック表示します。



部屋面積の単位

・ 部屋中央に書かれる面積の単位を切り替えます（㎡、帖）。



部屋面積合計の位置

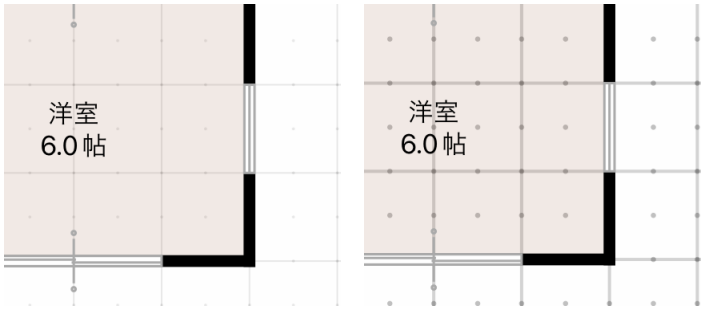
・ 画面下部の部屋面積合計の表示位置を切り替えます（左下、右下）。

グリッドサイズ

・ グリッド（マス目）のピッチを切り替えます（910、1000、カスタム）。

くっきり描画

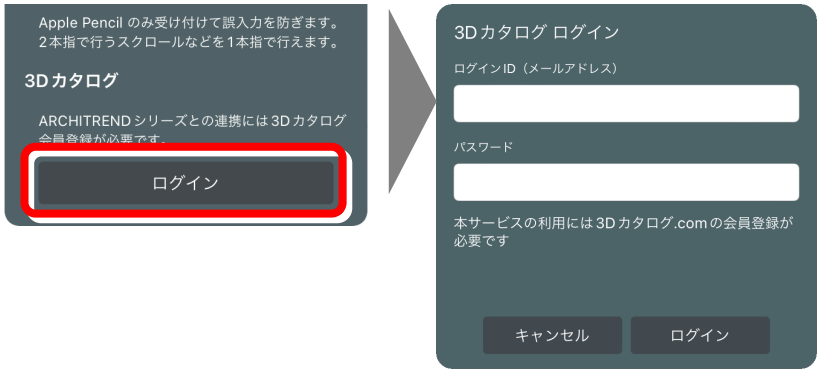
・ グリッド線が見えにくい場合にくっきりと描画します。



【くっきり描画：OFF】　【ON】

Apple Pencil 限定モード

・ ON にすると、入力時 Apple Pencil のペン先のみ認識します（誤操作防止）。
ON のとき、通常２本指で行うスクロールやダブルタップなどを１本指で行うことができます。



3D カタログ

- ZERO との連携、および ATDrive へのアップロードには、3D カタログ.com 有料契約が必要です。
- 3D 画面にて、3D カタログ.com のメーカー建材を利用するには、3D カタログの会員登録が必要です。

【下図を取込み ／ 基準点を変更】

「**下図を取込み**」は、主にホーム画面の「新規作成」－「紙・PDF 下図を取込み」を使って、1 階間取りデータを新規作成した場合に、1 階下図を取込み直す場合や 2 階・3 階に下図を取り込む際に使用します。
「**基準点を変更**」は、複数階で下図を取込んだ後、入力した間取りデータの基準点を揃える場合に使用します。
※ 下図の取り込み、基準点の変更については、『4. ③紙・PDF の図面データから下図トレース』 P.32 を参照してください。

- 下図を取り込み直す場合、元の下図の基準点と角度に、新しい下図の基準点と角度が揃うように再配置されます。
- 下図を取り込んだ後、下図を移動することはできません。間取りを入力する前に下図を取り込んでください。
- 下図を削除する場合は、「ごみ箱」を使います。

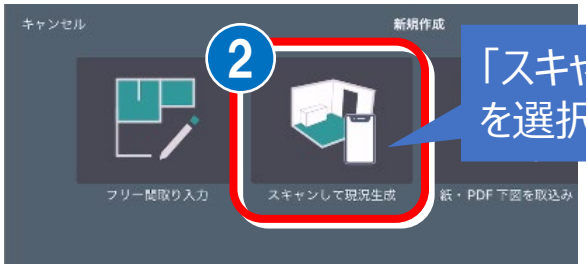
3 ②LiDAR で部屋を 3D スキャンして現況生成

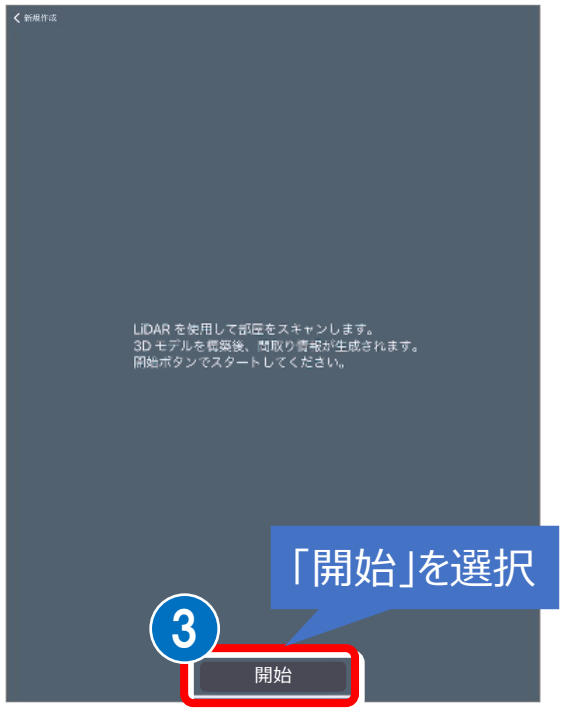
3-1 LiDAR で部屋を 3D スキャンする

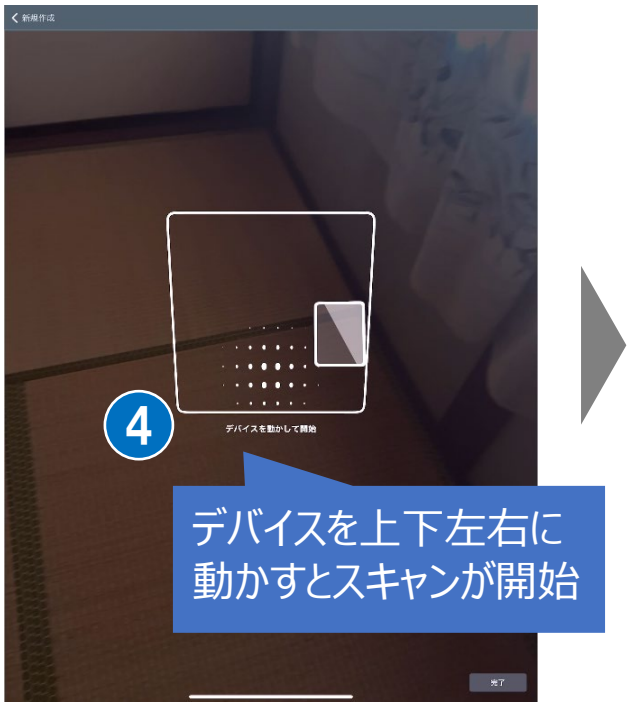
実際の物件を、iOS の LiDAR で 3D スキャンして間取りを自動作成します。

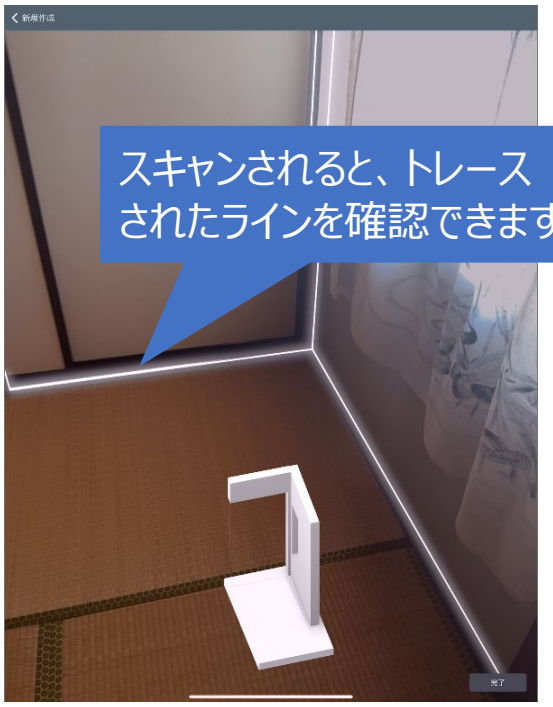
ポイント

- 3D スキャンによる現況の生成には、LiDAR が搭載されている Apple の iPad Pro、iPhone Pro が必要となります。
- １～２部屋をスキャンする場合に使用することを推奨します。

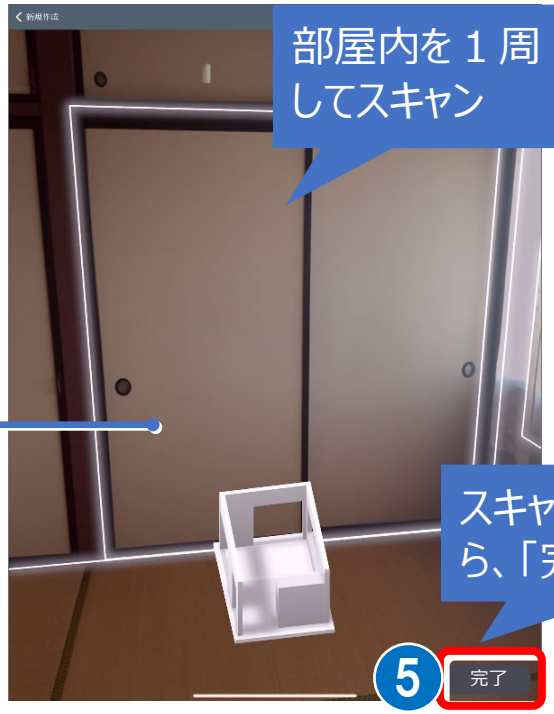




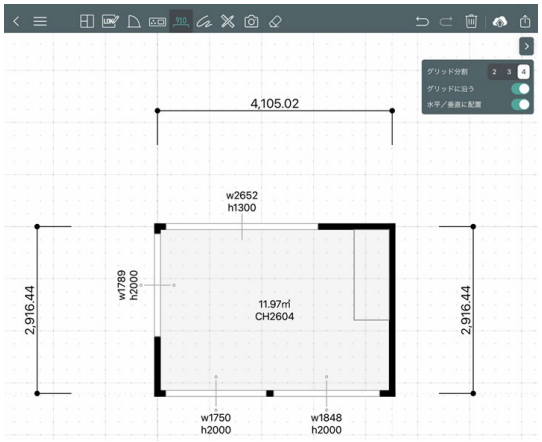




家具の位置、サイズも識別されます。



基本的に建具の位置、サイズも識別されますが、上図の上段の建具のように識別されないものもあります。



- 間取りデータが自動生成されます。
- 以降の編集などはフリー入力の作業と同等です。

- 数値の誤差は 1～2%程度とされていますので、キッチン入替など正確な数値が必要な場合は、必ず実測して寸法を編集してください。
- スキャンした結果、部屋が閉じた形状になっていない場合は、部屋が塗り潰しされないので、壁など書き加えて閉じた空間にください。
  ※ その場合、部屋は薄いグレー色で表現されます。
- 開口は幅と高さ情報を取得します。開口の表現など、生成される現況図はスキャンした立体と必ずしも一致しない場合があります。

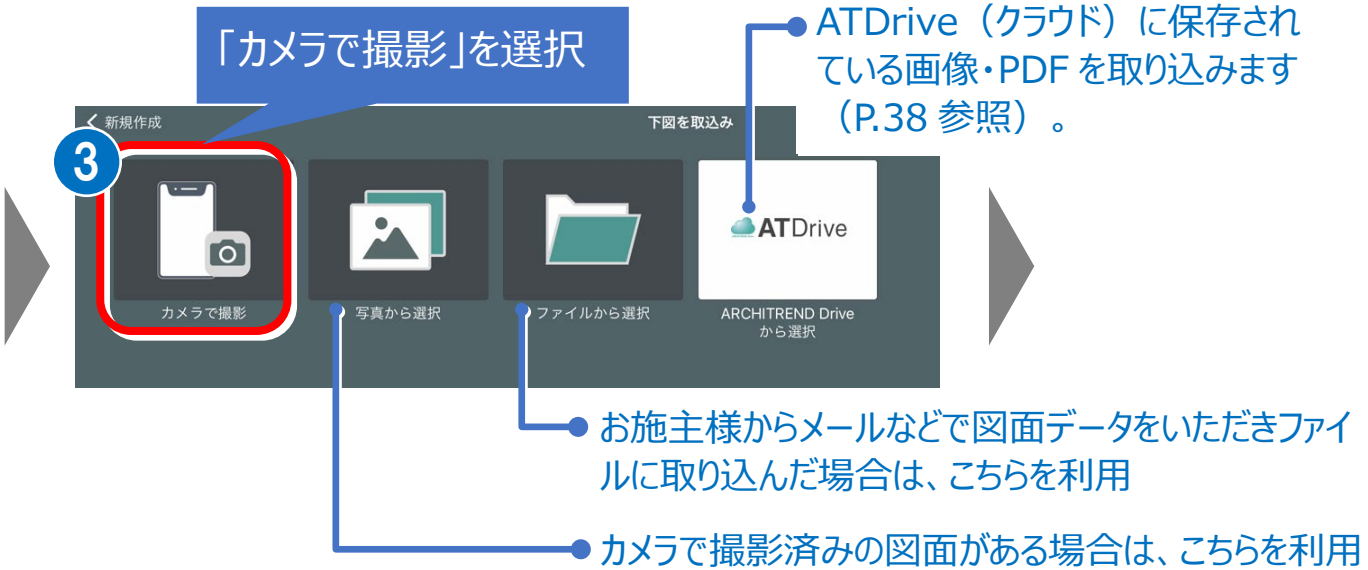
4 ③紙・PDFの図面データから下図トレース　4-1　下図を取り込む

■ カメラで撮影して取り込む

紙の図面がある場合は、実際にカメラで撮影して、**1 階下図**として取り込みます。

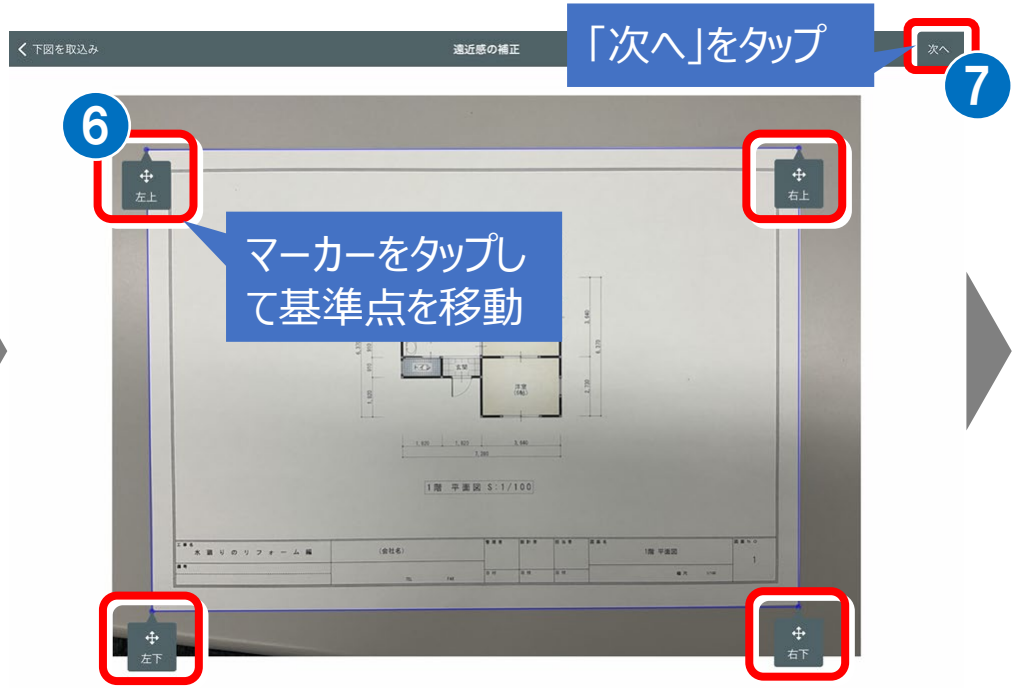
ポイント

- 撮影以外にも、画像・PDF データがある場合はファイルから選択して取り込むことが可能です。
- 取り込み手順：①撮影（もしくはデータ選択）→ ②遠近感の補正 → ③基準点・角度 → ④縮尺

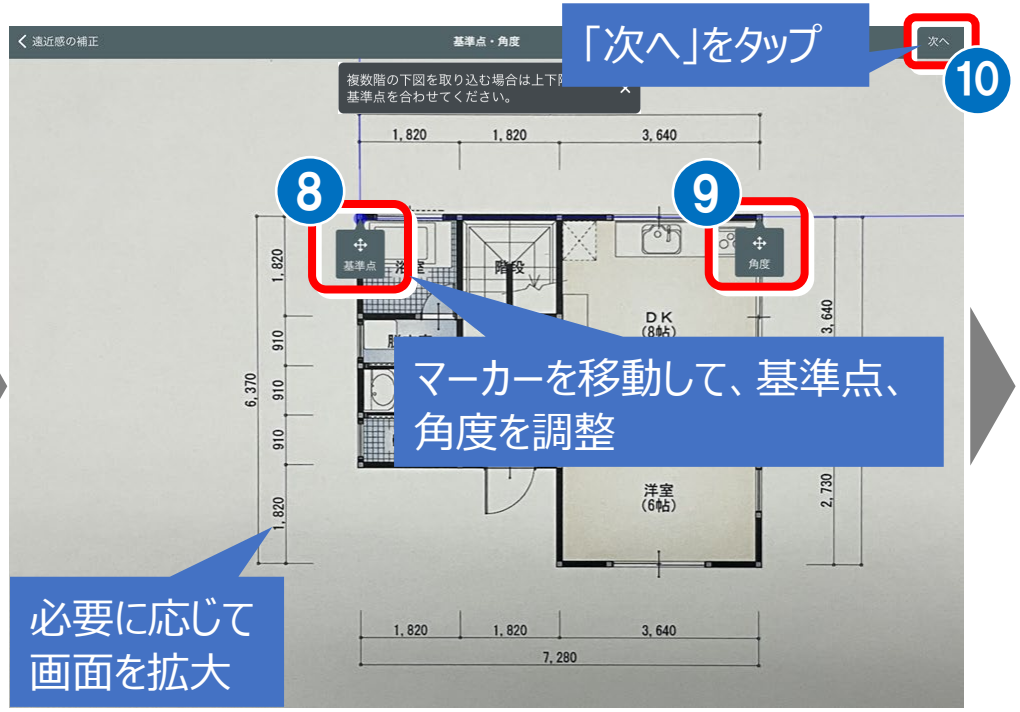


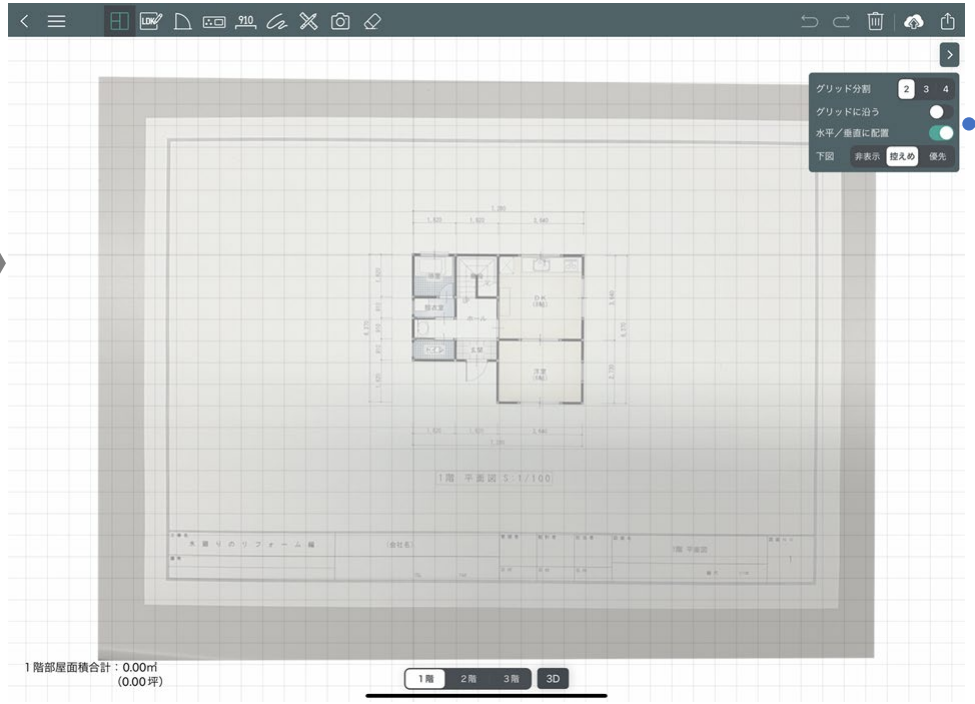
- 下図を取り込んで、りのべっちで壁などを入力せず、「イラスト」コマンドでメモだけを取るという使い方も可能です。
- りのべっちに下図のみを取り込んでおいて、ZERO に下図だけを連携し、ZERO で間取りを入力するという使い方もあります。

4
黄色のガイド線を
目安にして撮影
5
「撮影」
をタップ
図面がなるべく傾かないように
ガイド線を目安に撮影してください。
キャンセル


下図を取込み
遠近感の補正
「次へ」をタップ
次へ
7
6
左上
右上
マーカーをタップし
て基準点を移動
左下
右下

遠近感の補正
基準点・角度
次へ
複数階の下図を取り込む場合は上下階で
基準点を合わせてください。
ここでは、基準点
と角度を調整
基準点
角度


遠近感の補正
基準点・角度
「次へ」をタップ
次へ
10
複数階の下図を取り込む場合は上下階で
基準点を合わせてください。
8
基準点
9
角度
マーカーを移動して、基準点、
角度を調整
必要に応じて
画面を拡大



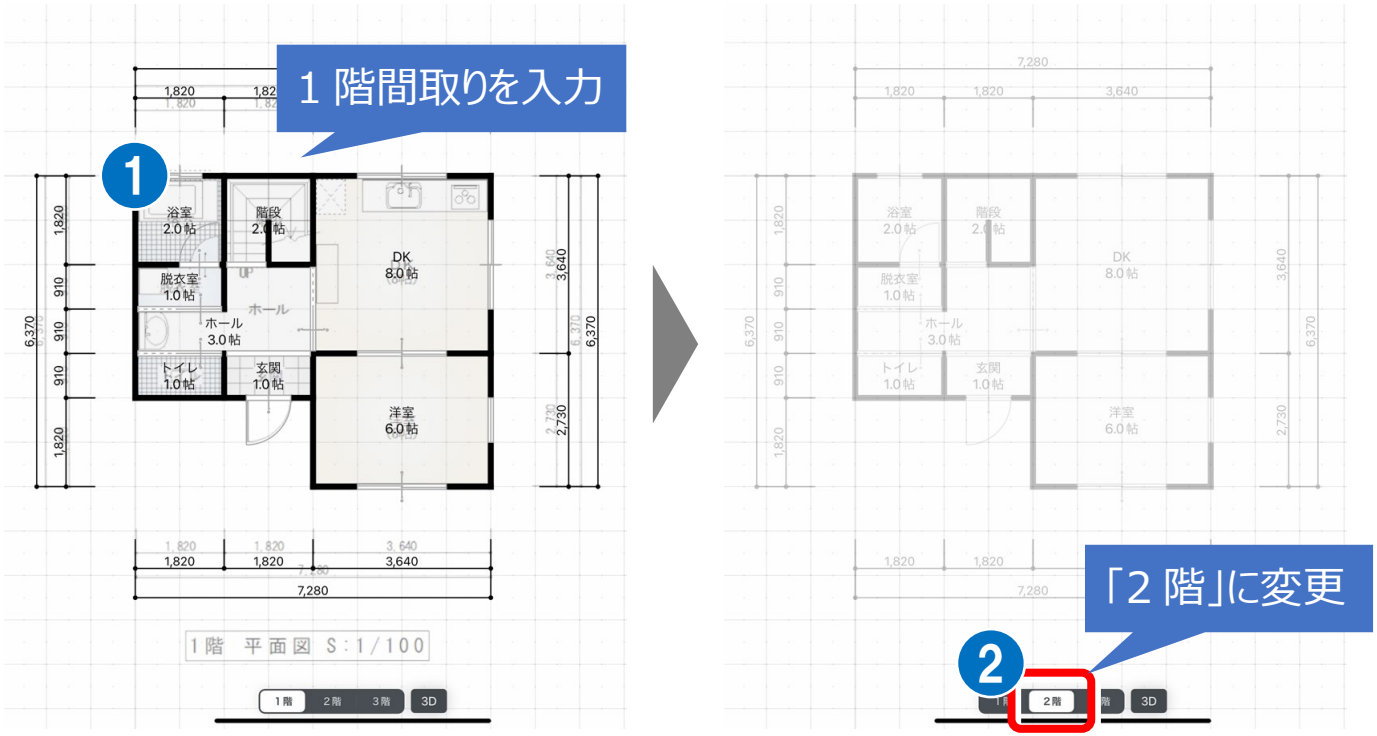
下図の表示・濃さを切り替えます。

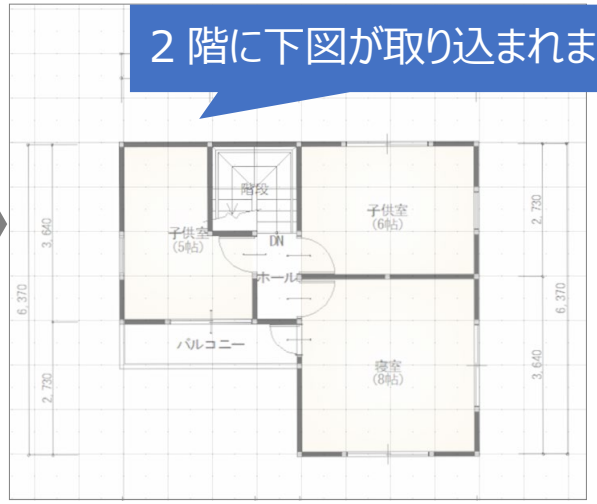
・ 以降の編集などはフリー入力の作業と同等です。

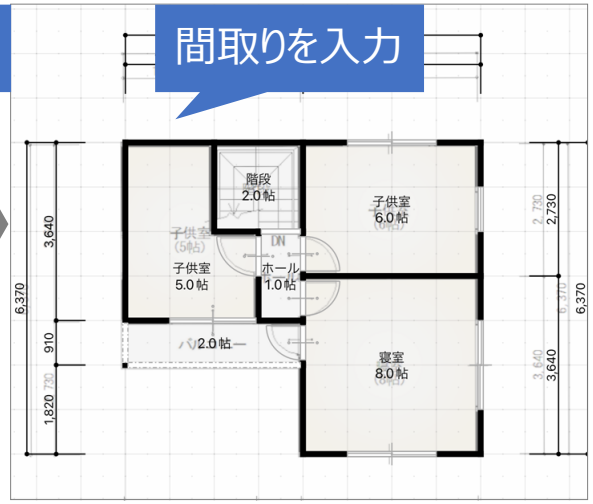
・ 下図を削除したい場合は、「ごみ箱」コマンドから行います（P.26、36 参照）。

■ 2 階以上に下図を取り込みたい場合

新規作成時の下図は、1 階に取り込まれるため、2 階以上に下図の取り込む場合は、メニューの「下図を取込み」を使います。
このとき、1 階下図の基準点と、2 階下図の基準点が合うように指定します。



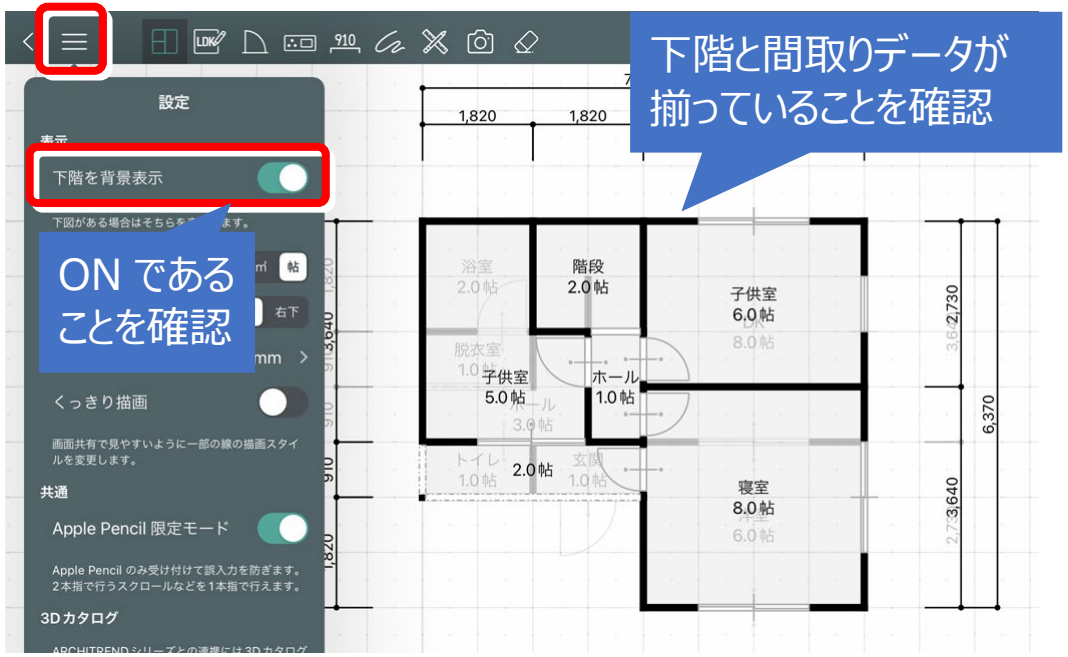




※ ここでは「縮尺」の解説は省略

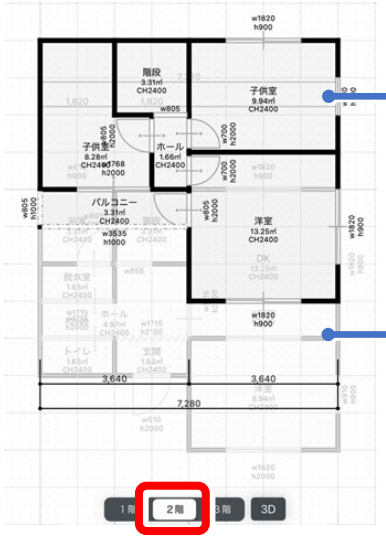
下図を削除して、下階を背景に表示し上下階で間取りデータが揃っているか確認します。

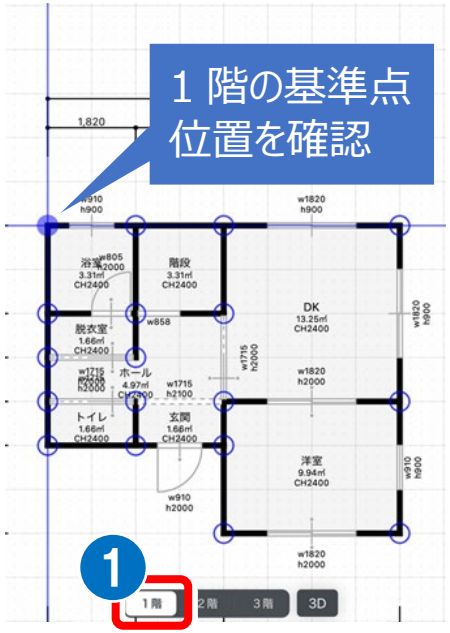
下図がある場合、下階は背景に表示されないため、上下階で
間取りデータが揃っているか確認できません。
※ 下図を非表示にしても同様

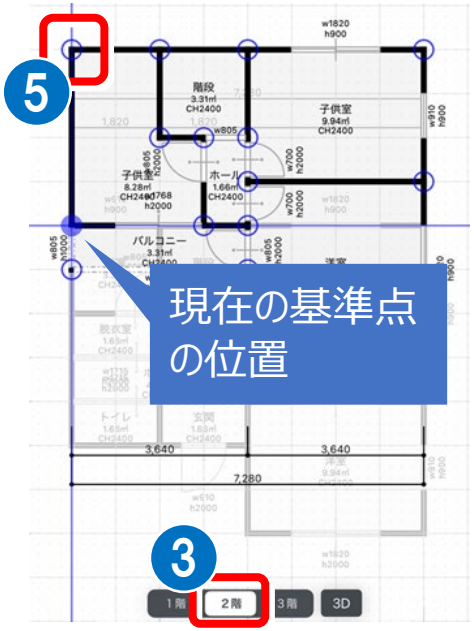


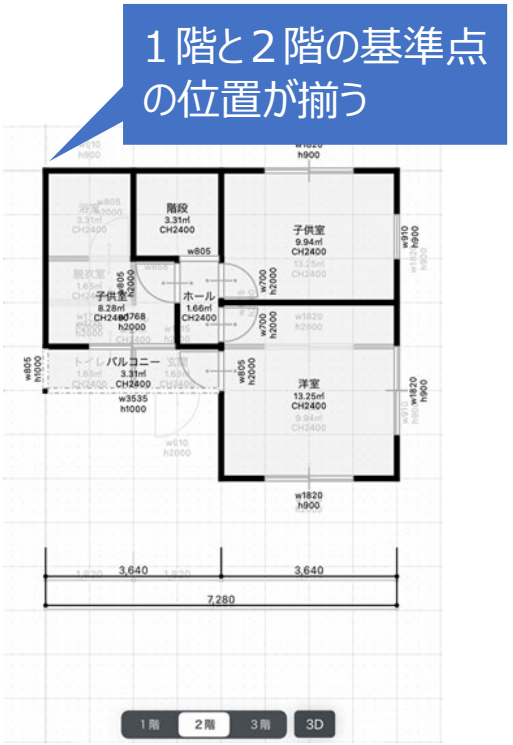
■ 上下階で間取りデータが揃っていない場合

例えば、2 階に下図を取り込み、間取りを入力した後に、上下階で間取りデータがずれていた場合は、基準点の位置を変更することで間取りデータの位置を揃えることができます。







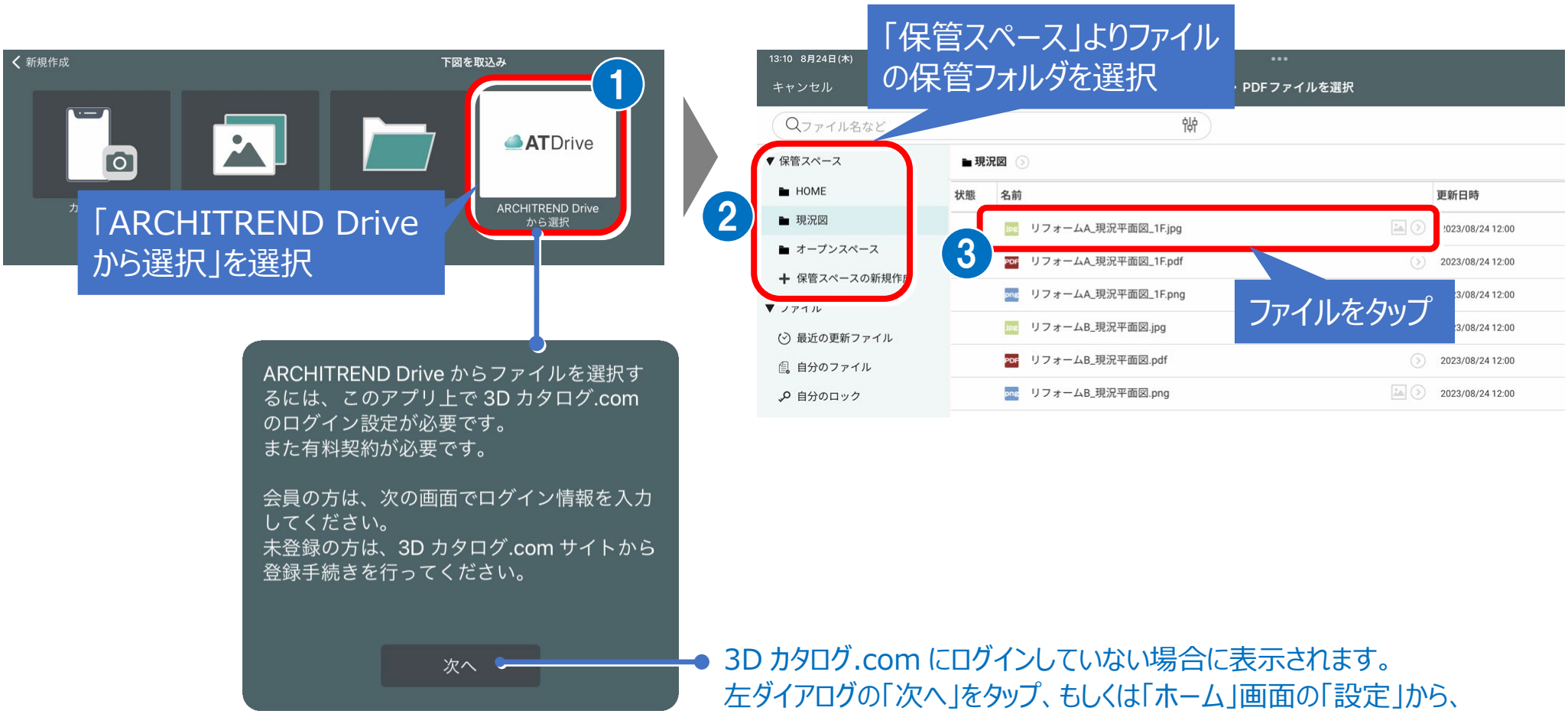


4 ③紙・PDFの図面データから下図トレース　4-2　ATDrive から下図を読み込む

別デバイス、別担当者などからクラウドを介して提供された下図データ（画像・PDF）を取り込む場合などに利用します。

ポイント

- ATDrive を利用するには、有料契約が必要です。



3D カタログ.com にログインしていない場合に表示されます。
左ダイアログの「次へ」をタップ、もしくは「ホーム」画面の「設定」から、ログイン画面で 3D カタログ.com にログインしてください。

5 ④3D カタログ.com の建材を割り当てる

5-1 メーカーの住宅設備機器を割り当てる

ここでは、3D カタログ.com のメーカー部品を割り当てる操作を解説します。
※ 建具、素材についても同様な操作で割り当てを行います。

ポイント

- 建材の割り当てには、3D カタログ.com に会員登録が必要です。
- 部品は、「部品」コマンドで入力した形状に対して割り当てを行います。
- 入力した部品のサイズ・形状に合うように変形されません。

※ 3D カタログ.com にログインしていない場合、確認が表示されます。

選択した角度で部品を回転します。

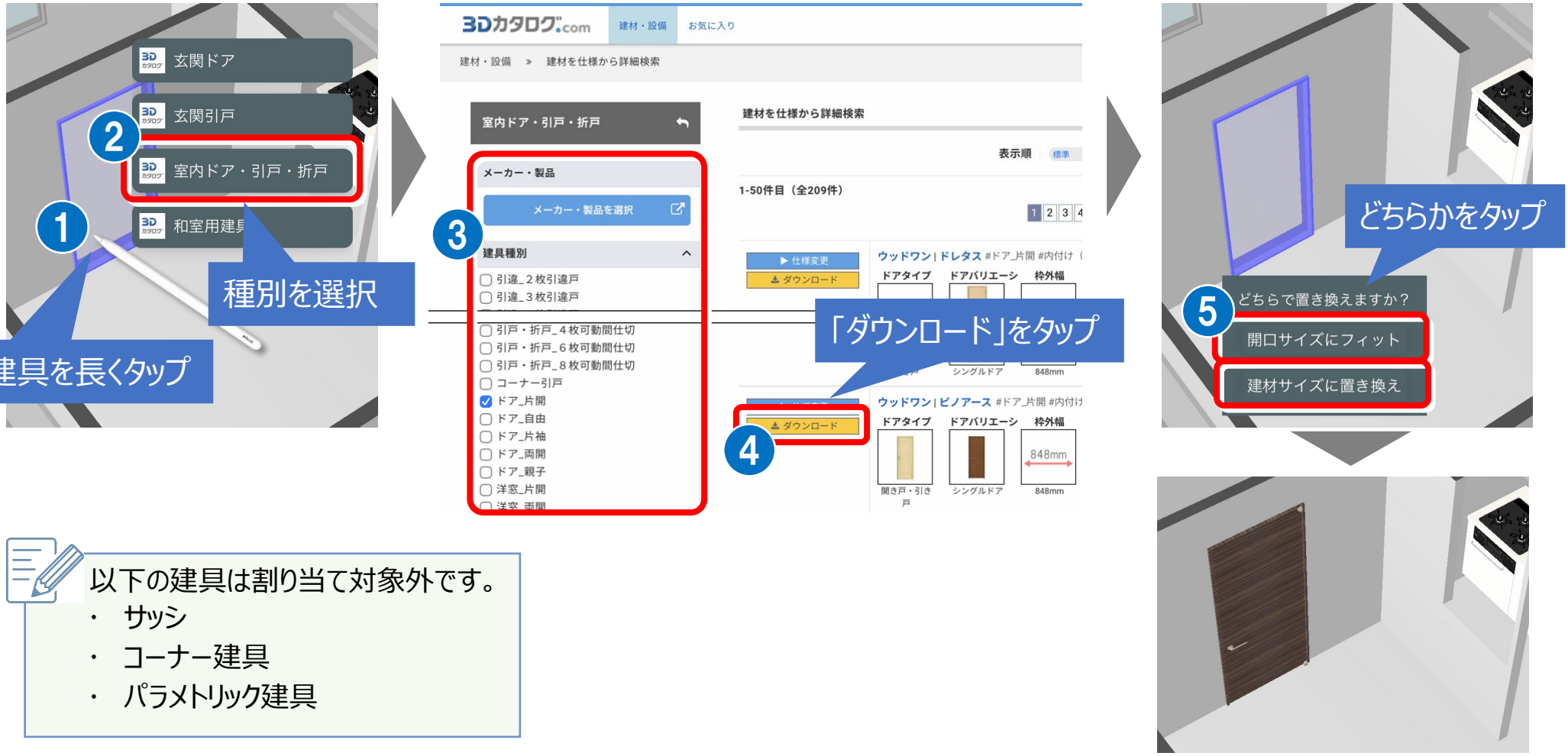
住設・家具は、対象の立体サイズが、サイトの検索条件の「立体幅」（最大値）にセットされ絞り込まれます（建具は「幅」「高」にセット）。

5 ④3D カタログ.com の建材を割り当てる

5-2　メーカーの建具を割り当てる

ポイント

- 建具は、「建具・開口」で入力した建具に対して割り当てを行います。
- 入力した開口サイズに変形させることができます。
- 割り当て可能な種別は、「玄関ドア」「玄関引戸」「室内ドア・引戸・折戸」「和室用建具」のみです。
  外部サッシなどは割り当てできません。



以下の建具は割り当て対象外です。

- サッシ
- コーナー建具
- パラメトリック建具

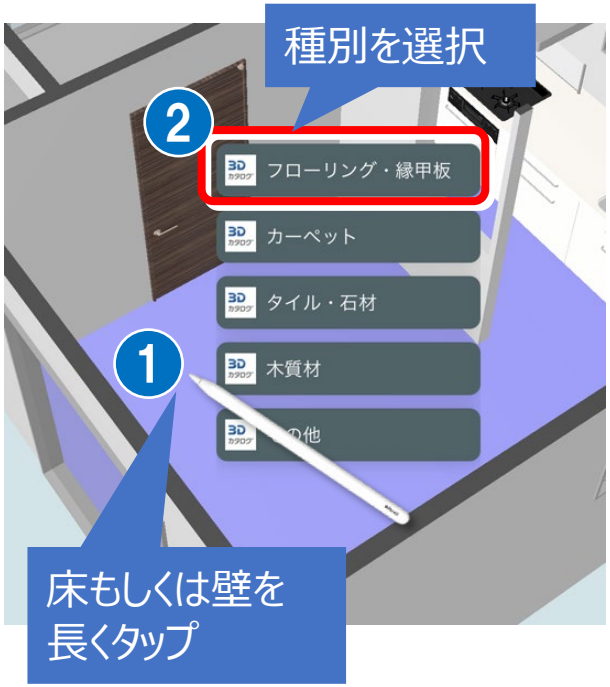
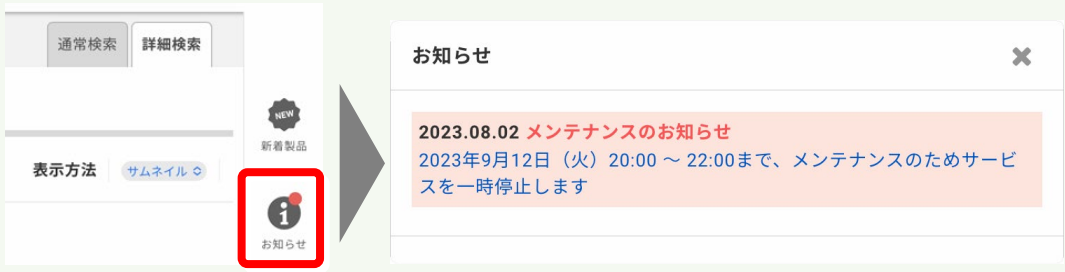
5 ④3D カタログ.com の建材を割り当てる

5-3　メーカーの素材を割り当てる

ポイント

- 素材は、「部屋・壁」で入力した壁・床・天井に対して割り当てを行います。
- 内壁面については、同じ部屋にある内壁面に一括して割り当てされます。

素材の向きは変更できません。



3D カタログ.com 右側にある「お知らせ」より、サイトのメンテナンスなどの情報を確認できます。